

令和7年度 子どもの読書の実態に関する調査の結果

1. 調査の目的

岡山県下における子どもの読書実態の現状把握のため、小学生・中学生・高校生の読書の実態に関する調査を実施したもの。

2. 調査の対象

県内の小学校・中学校・義務教育学校・中等教育学校・高等学校（私立を含む）に在籍する児童生徒

3. 調査の時期

令和7年10月1日から令和7年10月17日まで

4. 調査の方法

県教育委員会において、県内の小学校・中学校・義務教育学校・中等教育学校・高等学校（私立を含む）の中から地域分布及び児童生徒の在籍数（令和7年5月1日時点）等を考慮して調査対象校を抽出し、調査対象学科・学年を指定した。

調査対象校において、指定された学科・学年の中から1学級を選び、「3 調査の時期」の間で、学級単位で一斉に調査を実施した。

調査への回答は、Google フォームにて行い、回答回収結果は以下のとおりであった。

	小学生（4～6年生） ※義務教育学校4～6年生を含む ※分校を除く	中学生 ※義務教育学校7～9年生、 中等教育学校前期課程生を含む	高校生 ※中等教育学校後期課程生を含む ※通信制課程を除く
回答者数	951 人	907 人	913 人
回答回収率	90.6%（951/1,050 人）	86.3%（907/1,051 人）	87.2%（913/1,047 人）
県内校数	363 校	167 校	88 校
県内児童生徒数	46,933 人	48,966 人	47,565 人
調査対象校数	44 校	36 校	38 校
調査対象者数	1,050 人	1,051 人	1,047 人
抽出率	2.2%（1,050/46,933 人）	2.1%（1,051/48,966 人）	2.2%（1,047/47,565 人）

5. 調査の項目

問1 1か月の読書冊数（回答対象：全員）

問2 不読の理由（回答対象：問1で「全く読まなかった」と回答した児童生徒）

問2 本の入手方法（回答対象：問1で「全く読まなかった」と回答した児童生徒以外）

問3 1か月に利用した紙及び電子の文字・活字媒体（回答対象：全員）

問4 学校図書館の利用頻度（回答対象：全員）

6. 調査結果の見方

グラフに付加している「n」は、特に記載のない限り、回答者数とする。

調査結果の数値（%）は、特に記載のない限り、各質問への回答者数全体に対する割合とする。

なお、小数点第2位を四捨五入しているため、構成比の合計が100%ではない場合がある。

また、複数回答の場合、構成比の合計が100%を超える。

1. 読書の状況

① 1 か月の読書冊数

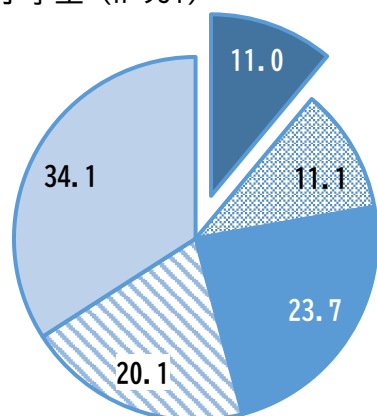
本調査の対象者全員に対して、9月1か月間に、何冊くらい「本（電子書籍を含む）」を読んだかを質問した。

※ 朝読書や授業の時間に読んだものを含む。

※ 本問における「本」には、マンガ（マンガ雑誌・学習マンガを含む）、雑誌、辞典・事典・図鑑、新聞、教科書・学習参考書、絵・写真のみの画集や写真集を含まない。

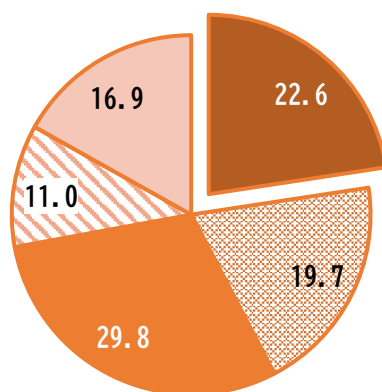
(1) 1 か月の読書冊数（％）【単一回答】

・小学生（n=951）



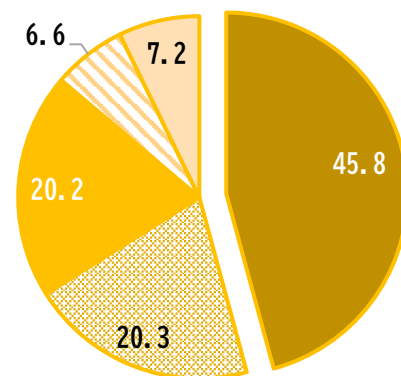
- 1. 全く読まなかった (n=105)
- 2. 1冊まではいかないが、読んだ (n=106)
- 3. 1～2冊読んだ (n=225)
- 4. 3～4冊読んだ (n=191)
- 5. 5冊以上読んだ (n=324)

・中学生（n=907）



- 1. 全く読まなかった (n=205)
- 2. 1冊まではいかないが、読んだ (n=179)
- 3. 1～2冊読んだ (n=270)
- 4. 3～4冊読んだ (n=100)
- 5. 5冊以上読んだ (n=153)

・高校生（n=913）



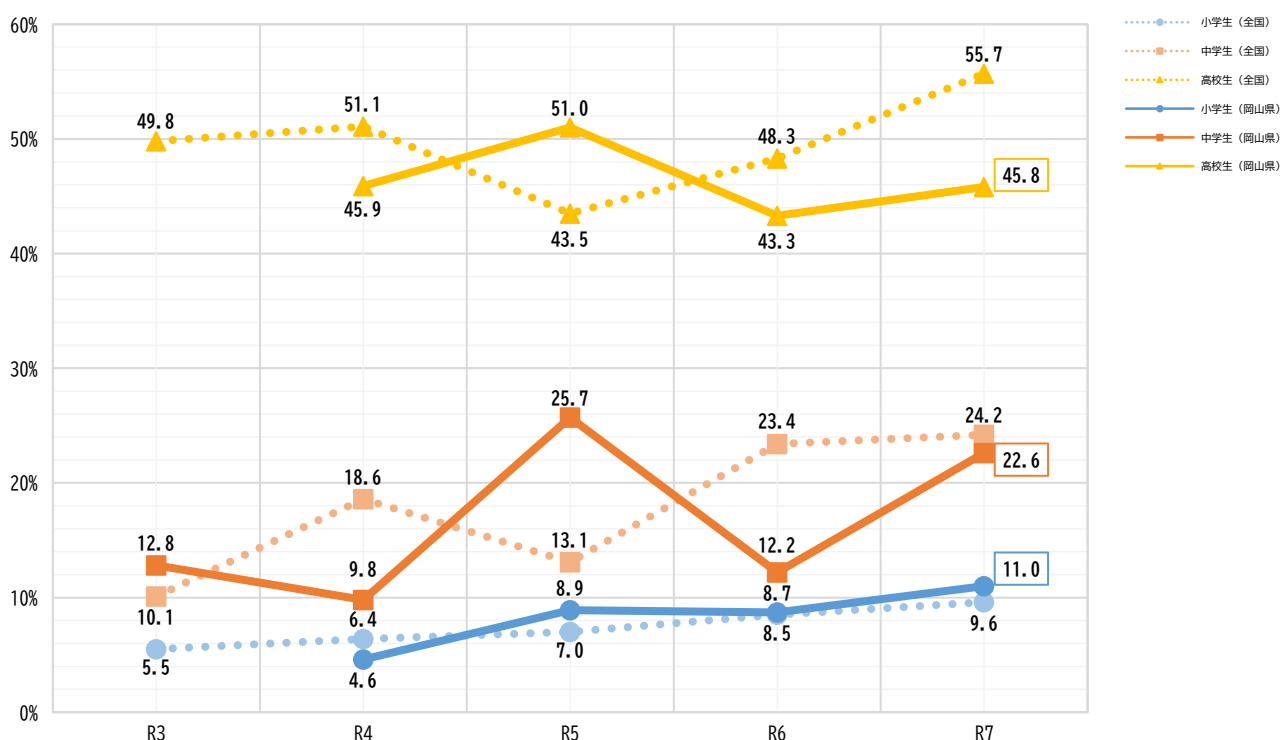
- 1. 全く読まなかった (n=418)
- 2. 1冊まではいかないが、読んだ (n=185)
- 3. 1～2冊読んだ (n=184)
- 4. 3～4冊読んだ (n=60)
- 5. 5冊以上読んだ (n=66)

(2) 不読率

本調査において、9月1か月間に本を全く読まなかった児童生徒の割合を、不読率とする。

令和7年度の不読率は、小学生は11.0%（前年度比+2.3%）、中学生は22.6%（前年度比+10.4%）、高校生は45.8%（前年度比+2.5%）となった。

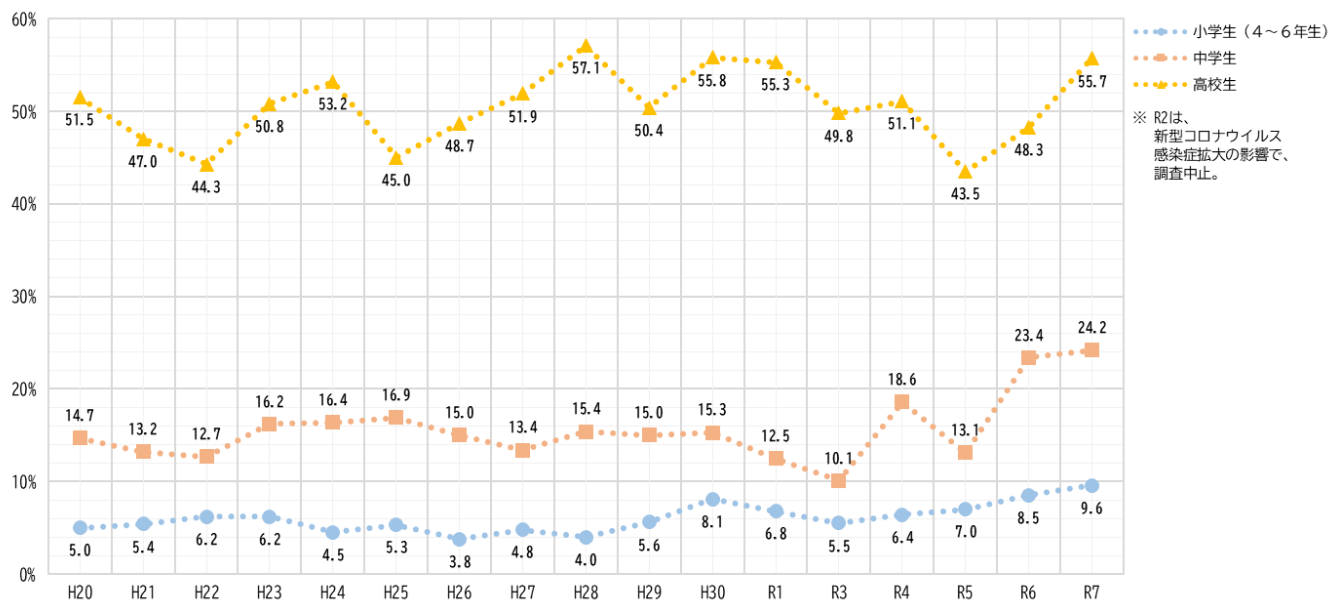
・不読率の推移（％）



(参考) 全国小4～高3の不読率の推移(%)

(公益社団法人全国学校図書館協議会『第70回学校読書調査(2025年)』より)

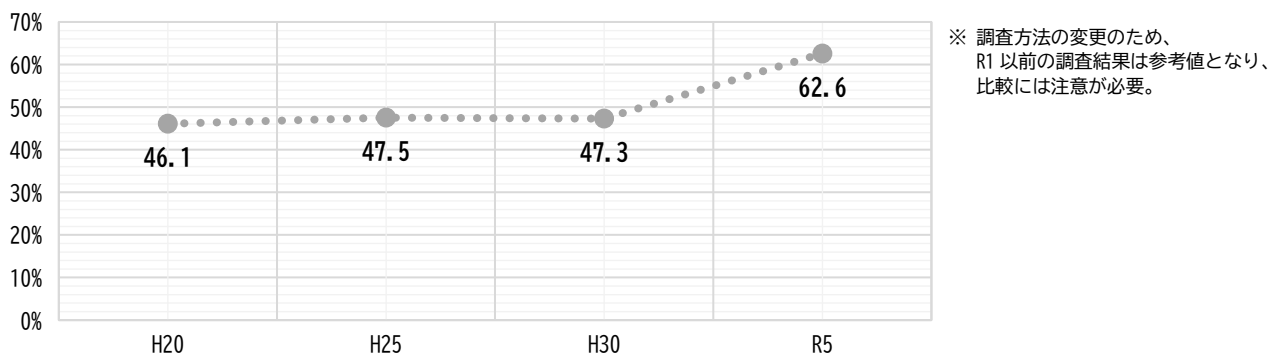
※ 不読率の定義…「あなたは5月1か月の間に、本を何冊ぐらい読みましたか。かりて読んだ本も入れてください。(教科書・学習参考書・マンガ・雑誌やふろくをのぞく)。」【冊数を自由記述】という質問に対し、「0冊」と回答した児童生徒の割合。(電子書籍を含む)



(参考) 全国16歳以上の不読率の推移(%)

(文化庁国語課『令和5年度「国語に関する世論調査」』より)

※ 不読率の定義…「あなたは現在、1か月に大体何冊くらい本を読んでいますか。電子書籍を含みますが、雑誌や漫画は除きます。」【単一回答】という質問に対し、「読まない」と回答した人の割合。



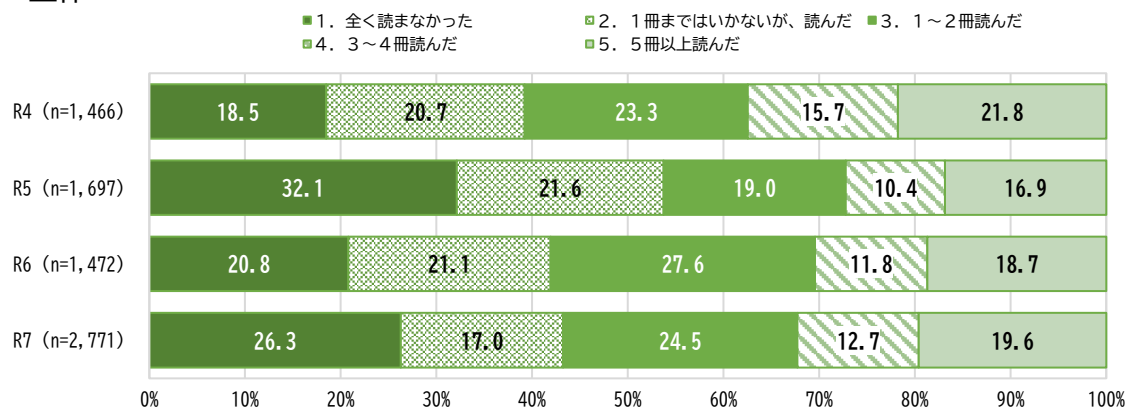
令和7年度調査では、令和6年度調査と同様に、小学生の不読率は全国より高かったものの、中学生・高校生の不読率は全国よりも低かった。第4次岡山県教育振興基本計画における令和7年度目標指標の数値目標については、いずれの校種とも未達成となった。

目標指標	R5(計画策定時)の値	R7目標値	R8目標値	R9目標値	R10目標値
子どもの不読率	小：8.9%	小：7.8%	小：6.7%	小：5.6%	小：4.5%
	中：25.7%	中：22.5%	中：19.3%	中：16.1%	中：12.9%
	高：51.0%	高：44.6%	高：38.2%	高：31.8%	高：25.5%

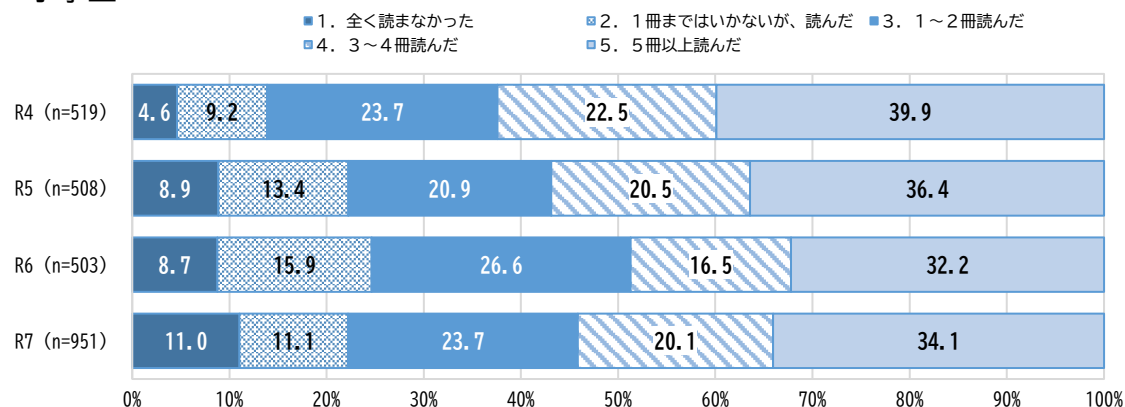
また、令和6年度調査では、いずれの校種とも前年度より不読率が低下(改善)したものの、令和7年度調査では、いずれの校種とも前年度より不読率が上昇(悪化)した。小学生の不読率はわずかな上昇にとどまったものの、全国では4年連続で上昇しており、本県でも上昇傾向にある。中学生の不読率は大きく上昇しており、全国では2年連続で上昇している。高校生の不読率はわずかな上昇にとどまったものの、小学生の約4.2倍、中学生の約2.0倍と高止まりが続いており、全国では2年連続で上昇している。

(3)「1 か月の読書冊数」の推移（校種別・％）【単一回答】

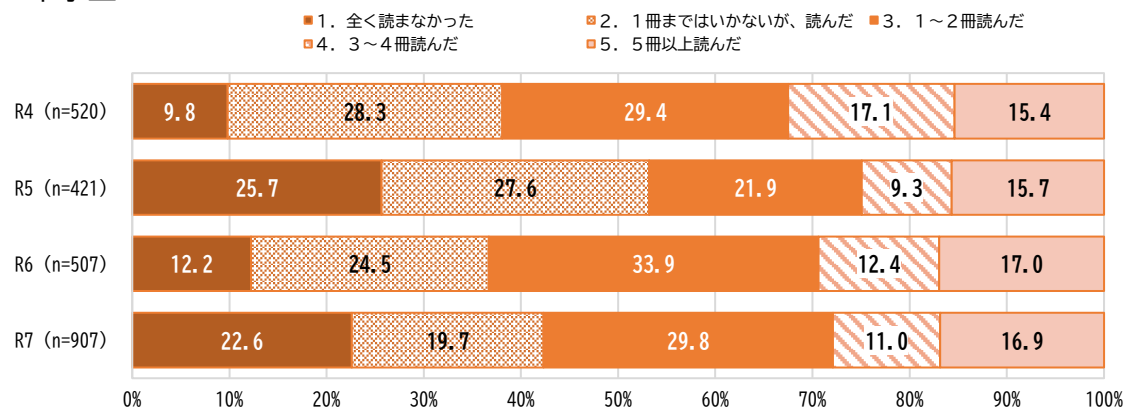
・全体



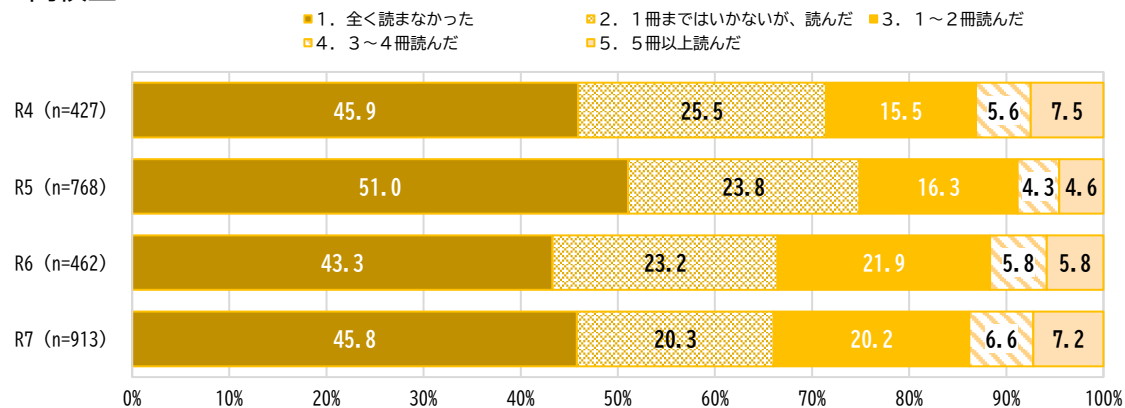
・小学生



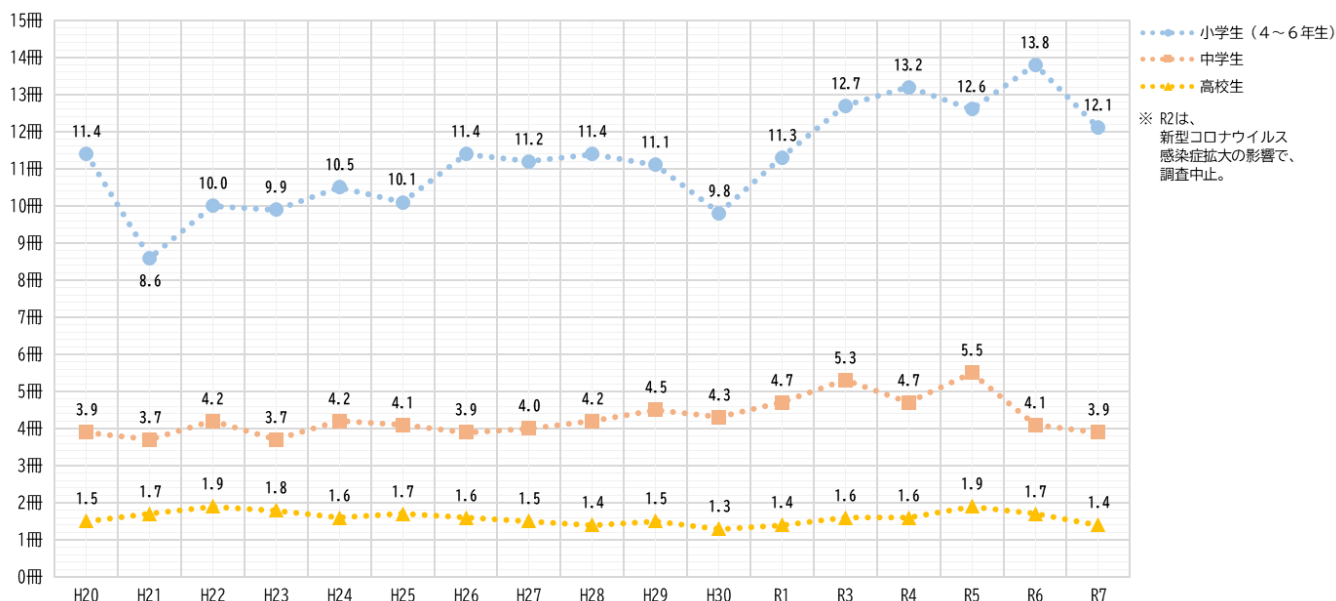
・中学生



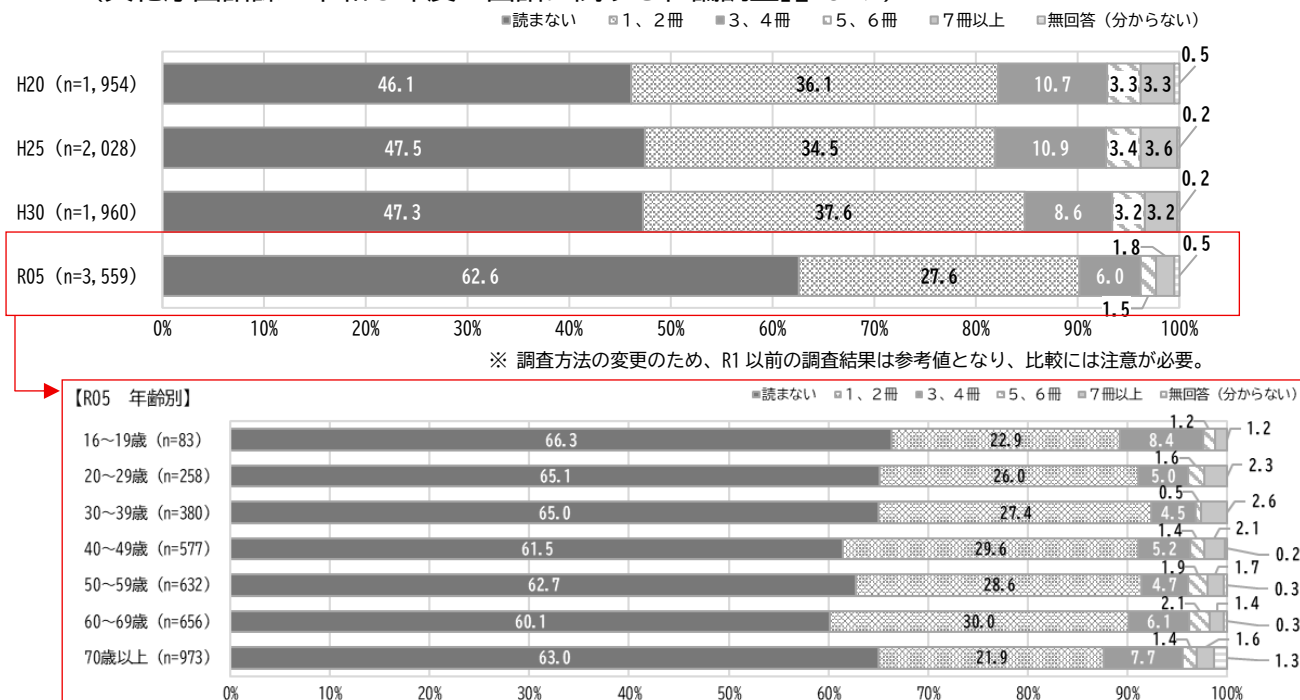
・高校生



(参考) 全国小4～高3の5月1か月の平均読書冊数の推移(冊)【冊数を自由記述】
(公益社団法人全国学校図書館協議会『第70回学校読書調査(2025年)』より)



(参考) 全国16歳以上の1か月の読書冊数の推移(%)【単一回答】
(文化庁国語課『令和5年度「国語に関する世論調査」』より)



令和7年度調査では、全体的に「全く読まなかった」(26.3%)の回答割合が最も高かった。

小学生については、令和4～6年度調査では「5冊以上読んだ」の回答割合が最も高かったが、令和7年度調査では「1～2冊読んだ」(40.6%)の回答割合が最も高く、調査年度ごとに読書冊数が減少傾向にある。中学生については、令和4・6年度調査と同様に「1～2冊読んだ」(29.8%)の回答割合が最も高く、調査年度ごとにばらつきはあるが、「全く読まなかった」を除くと、1冊未満～2冊以下読んだ層が厚い傾向にある。高校生については、過去の調査と同様に「全く読まなかった」(45.8%)の回答割合が最も高く、「全く読まなかった」を除くと、1冊未満～2冊以下読んだ層が厚い傾向にある。

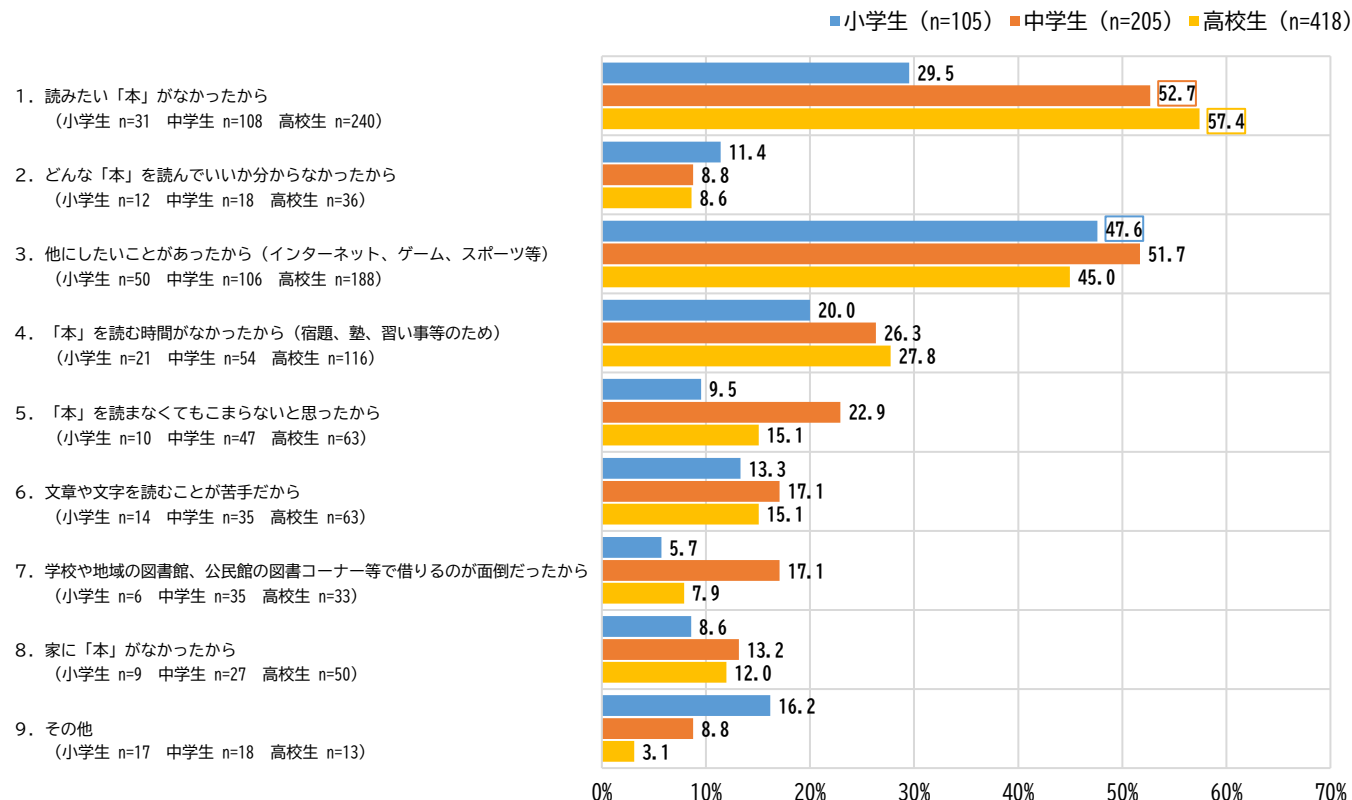
全国小4～高3の令和7年5月1か月の平均読書冊数をみると、小学生が12.1冊、中学生が3.9冊で、本県よりも多く、高校生が1.4冊で、本県と同程度である。

また、全国16歳以上の1か月の読書冊数をみると、「読まない」の回答割合が最も高く、次いで「1、2冊」の回答割合が高い傾向にあり、本県高校生の結果と同様の傾向がうかがえる。

②不読の理由

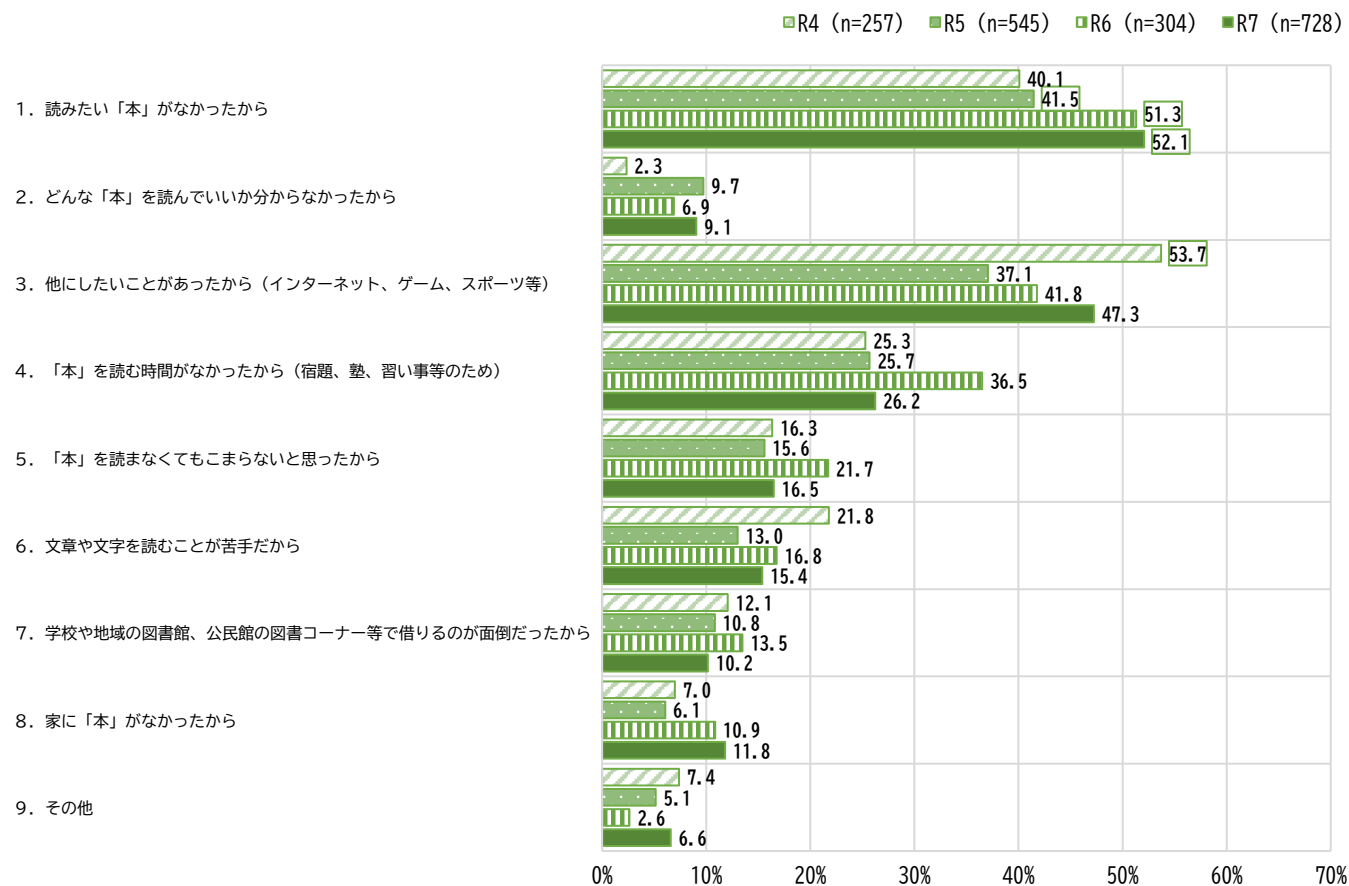
問１（１か月の読書冊数）において、「全く読まなかった」と回答した児童生徒に対して、本を読まなかった理由を質問した。

(1)本を読まなかった理由（％）【複数回答】

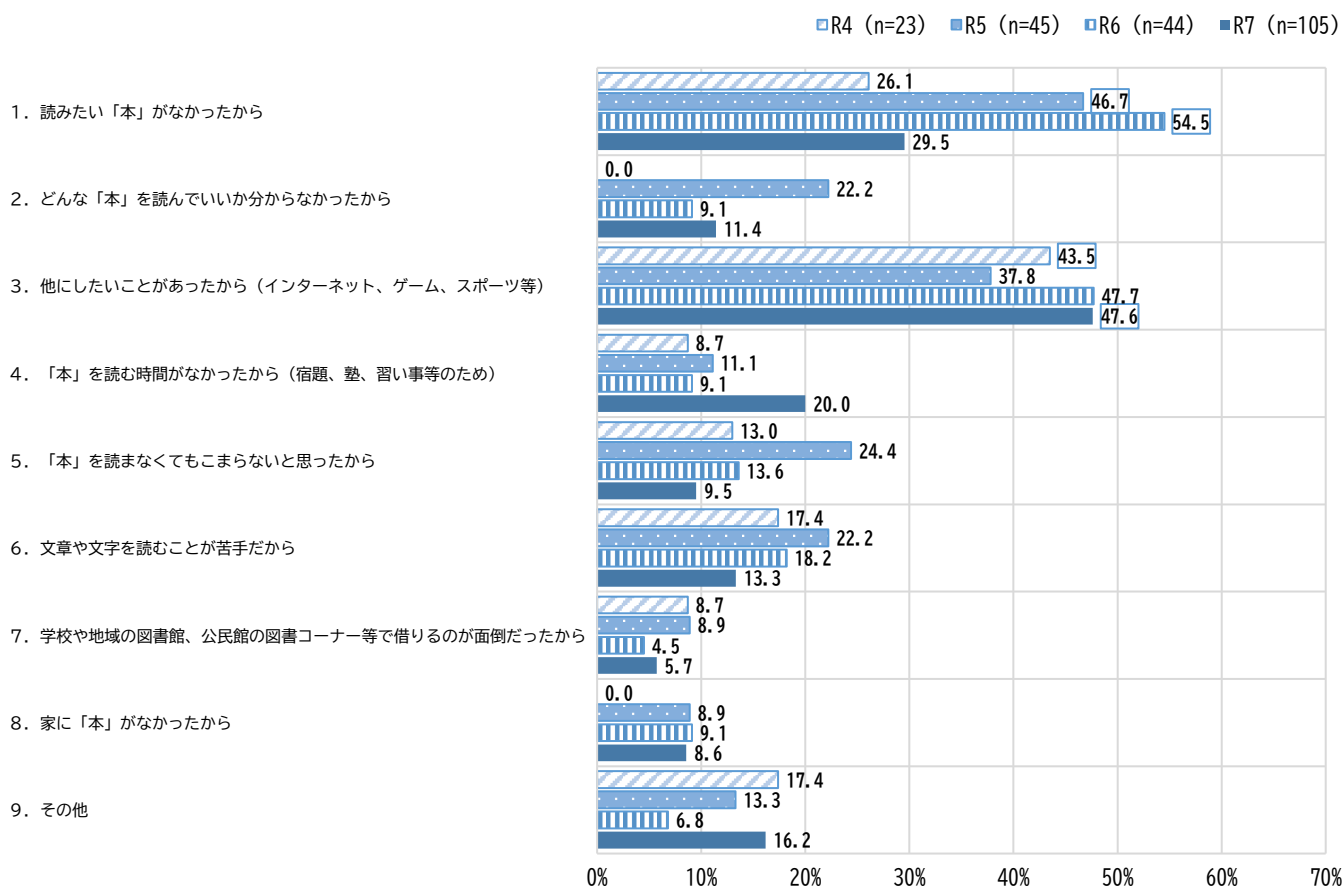


(2)「本を読まなかった理由」の推移（校種別・％）【複数回答】

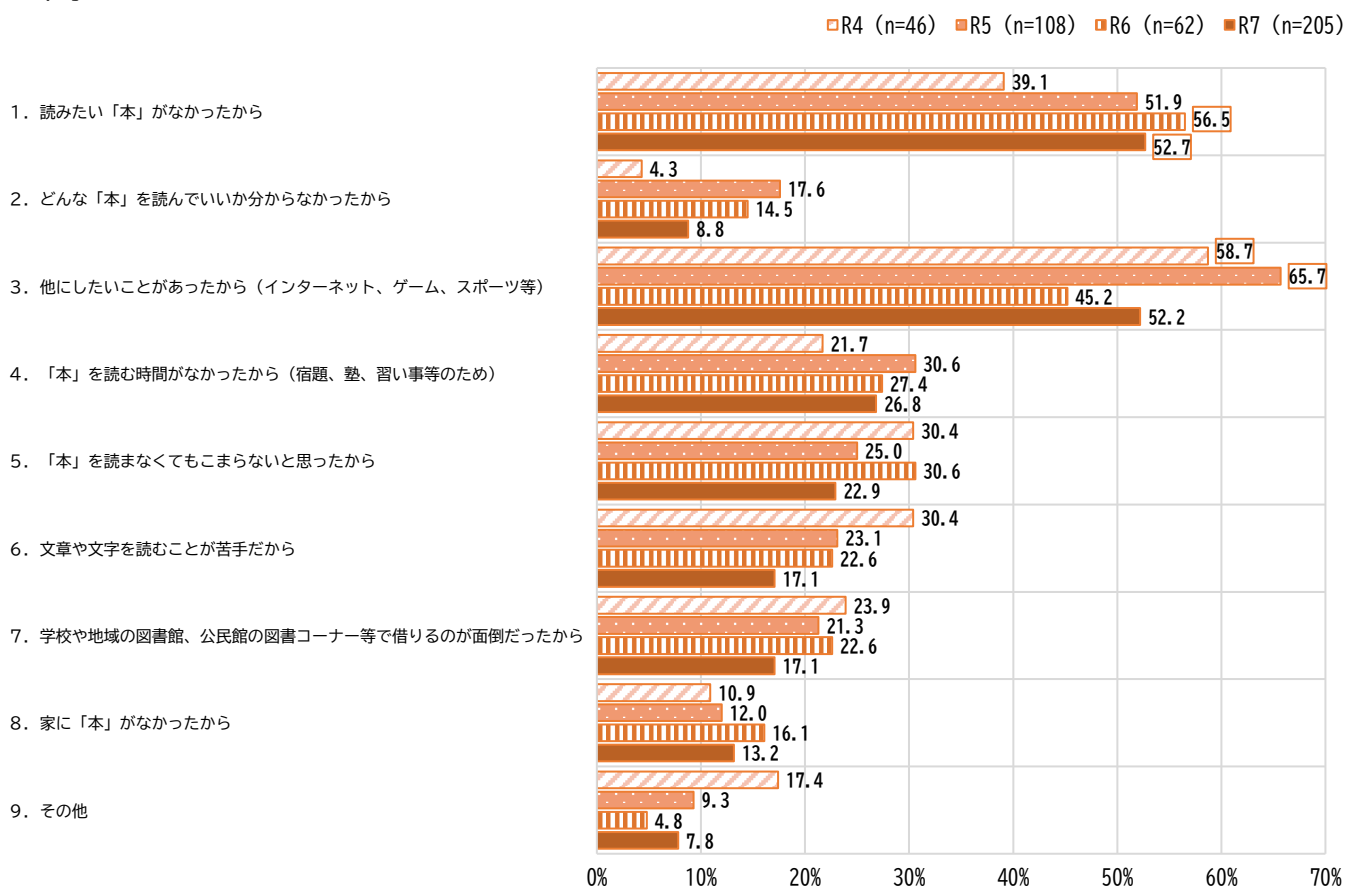
・全体



・小学生



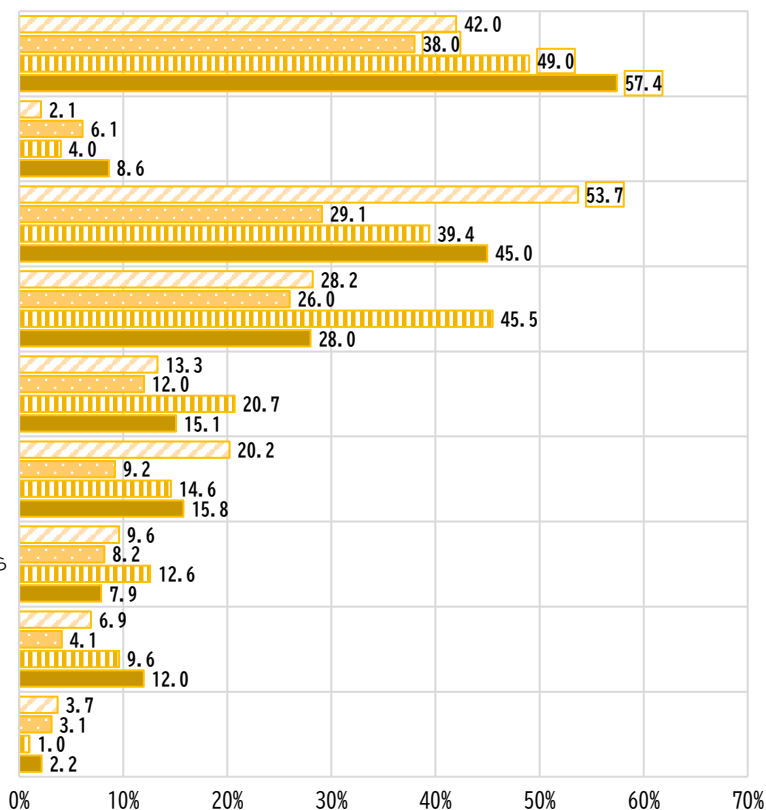
・中学生



・高校生

■ R4 (n=188) ■ R5 (n=392) ■ R6 (n=198) ■ R7 (n=418)

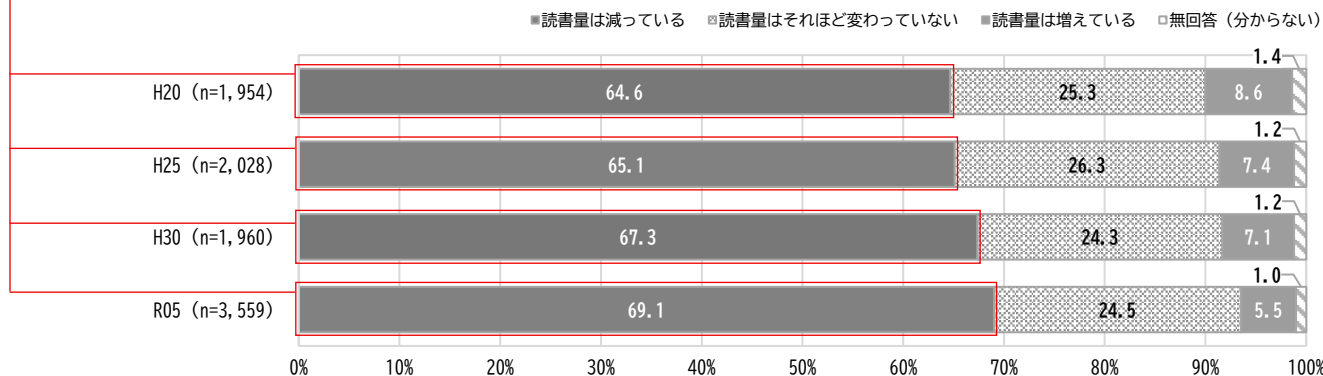
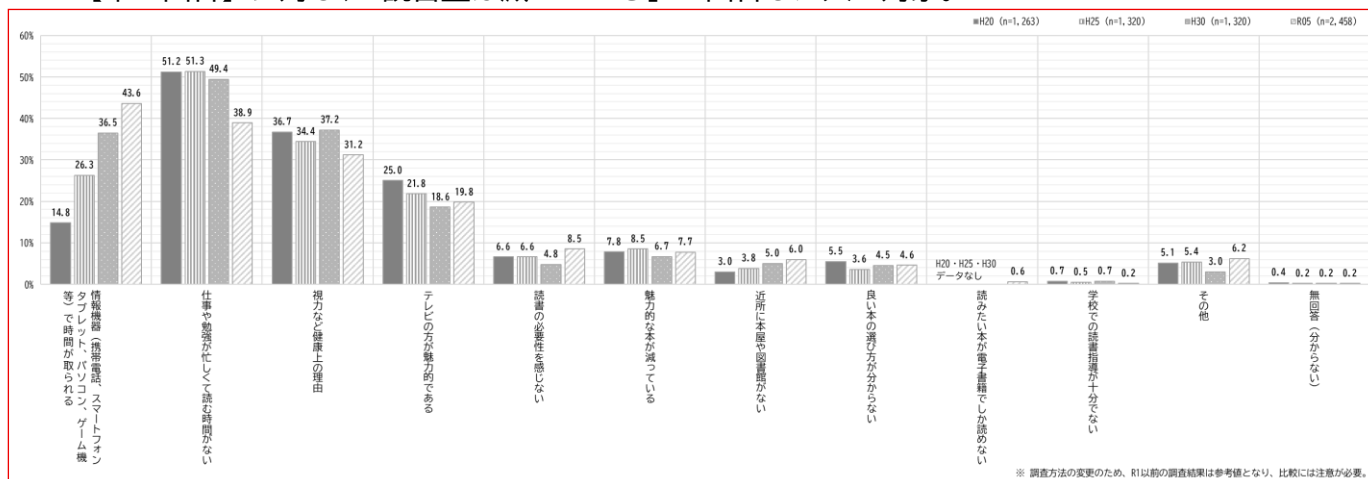
1. 読みたい「本」がなかったから
2. どんな「本」を読んでいいかわからなかったから
3. 他にしたいことがあったから（インターネット、ゲーム、スポーツ等）
4. 「本」を読む時間がなかったから（宿題、塾、習い事等のため）
5. 「本」を読まなくてもこまらなと思ったから
6. 文章や文字を読むことが苦手だから
7. 学校や地域の図書館、公民館の図書コーナー等で借りるのが面倒だったから
8. 家に「本」がなかったから
9. その他



（参考）全国16歳以上の読書量が減っている理由（％）【複数回答・2つまで】

（文化庁国語課『令和5年度「国語に関する世論調査」』より）

※ 「あなたの読書量は、以前に比べて減っていますか。それとも、増えていますか。」という質問【単一回答】に対し、「読書量は減っている」と回答した人が対象。

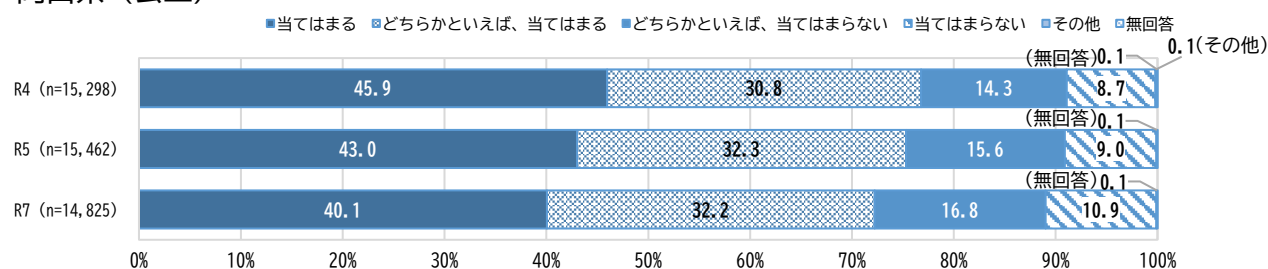


(参考) 読書が好きかどうか (%)【単一回答】

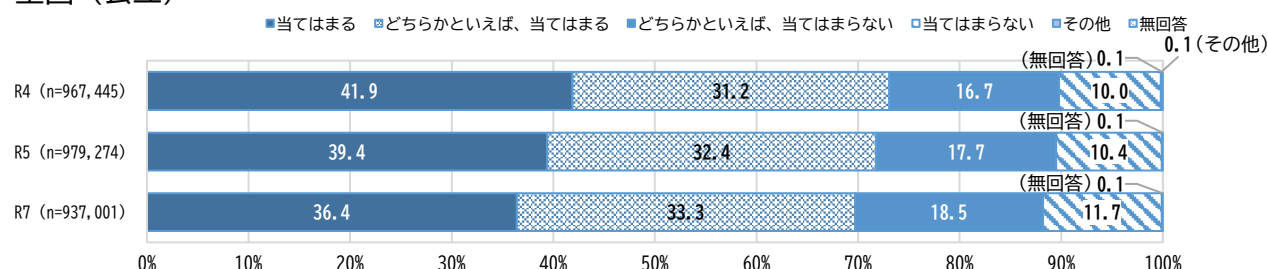
(文部科学省『全国学力・学習状況調査』(令和4年度・令和5年度・令和7年度)より)

・小学6年生

岡山県(公立)

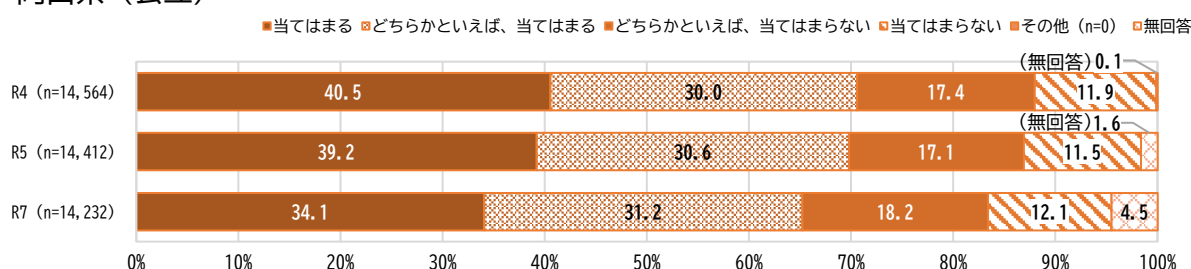


全国(公立)

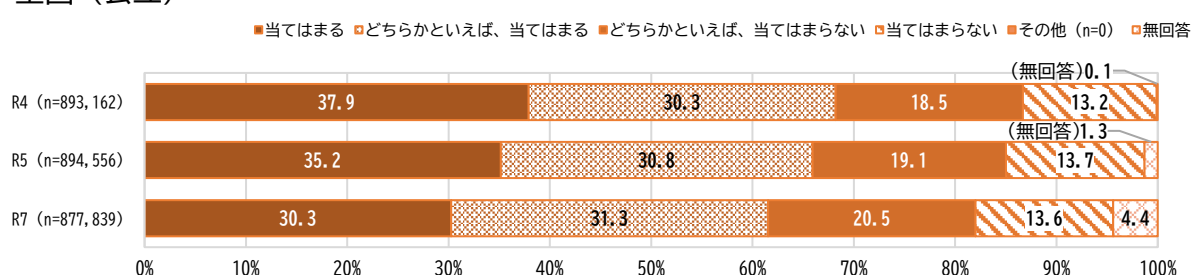


・中学3年生

岡山県(公立)



全国(公立)



令和7年度調査では、全体的に「読みたい【本】がなかったから」(52.1%)の回答割合が最も高く、令和5・6年度調査と同様の傾向がみられた。

小学生については、令和5・6年度調査では「読みたい【本】がなかったから」の回答割合が最も高かったが、令和7年度調査では「他にしたいことがあったから」(47.6%)の回答割合が最も高かった。中学生・高校生については、令和6年度調査と同様に「読みたい【本】がなかったから」(中52.7%、高57.4%)の回答割合が最も高かった。また、いずれの校種とも「【本】を読む時間がなかったから」(小20.0%、中26.3%、高27.8%)の回答割合が3番目に高かった。

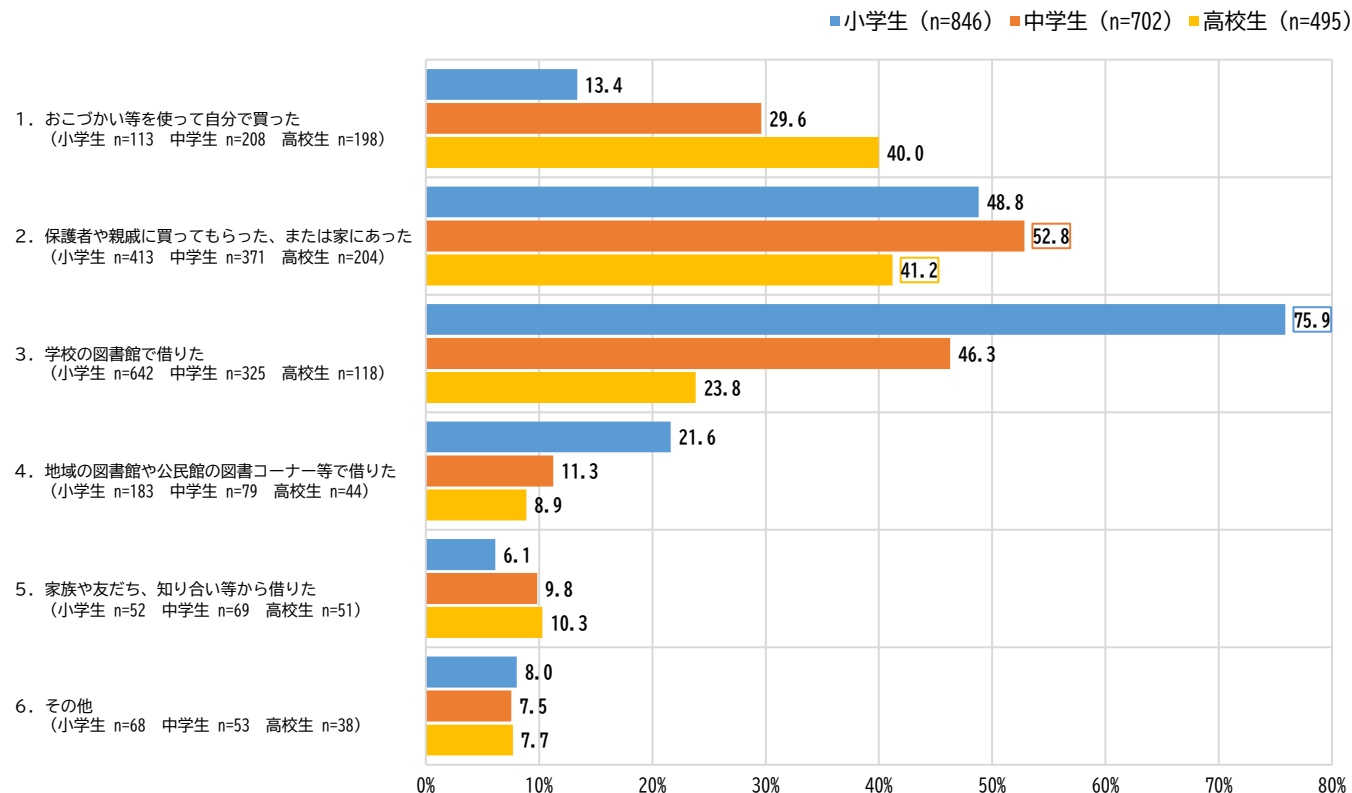
全国16歳以上の読書量が減っている理由をみても、「仕事や勉強が忙しくて読む時間がない」の回答割合が高い傾向にあり、「情報機器で時間が取られる」の回答割合が調査年度ごとに増加傾向にあることから、時間的制約の増加や読書以外の活動の充実があっても、読書意欲を維持・向上させていくことが課題となっている。また、読書が好きと回答した小学6年生・中学3年生の割合は、本県・全国ともに、調査年度ごとに減少傾向にあり、読書の楽しさや価値を伝えることも課題となっている。

児童生徒が、多様な本に触れる中で、自身が読みたいと思える本を探し、主体的に選ぶ力を養うとともに、「読書が楽しい」と実感できる経験を積み重ねていくことができるよう、児童生徒の生活環境全体をふまえた読書環境の整備や読書活動の支援が引き続き求められている。

③本の入手方法

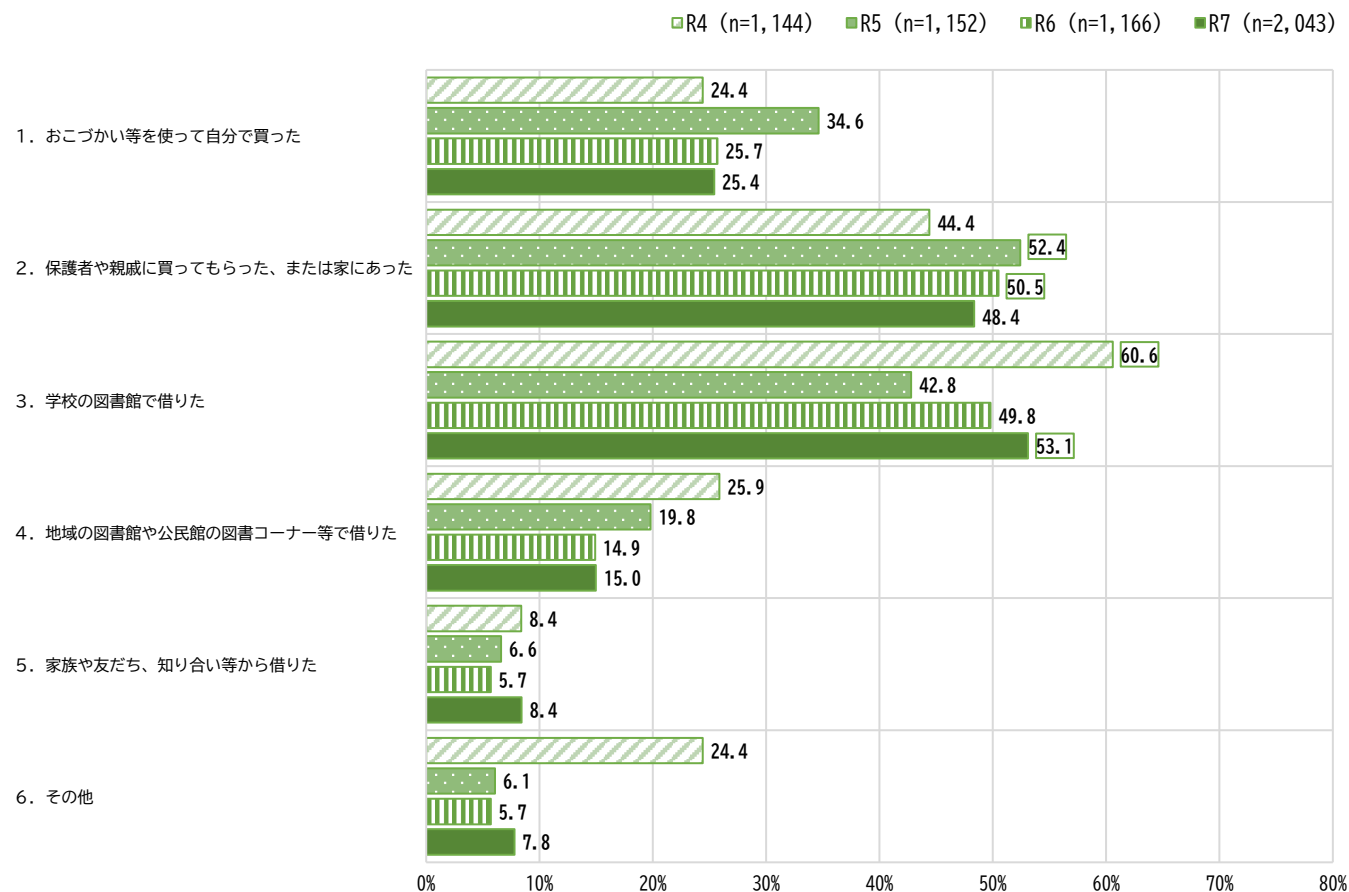
問１（１か月の読書冊数）において、「全く読まなかった」と回答した児童生徒以外に対して、読んだ本を手に入れた方法を質問した。

(1)本を手に入れた方法（％）【複数回答】

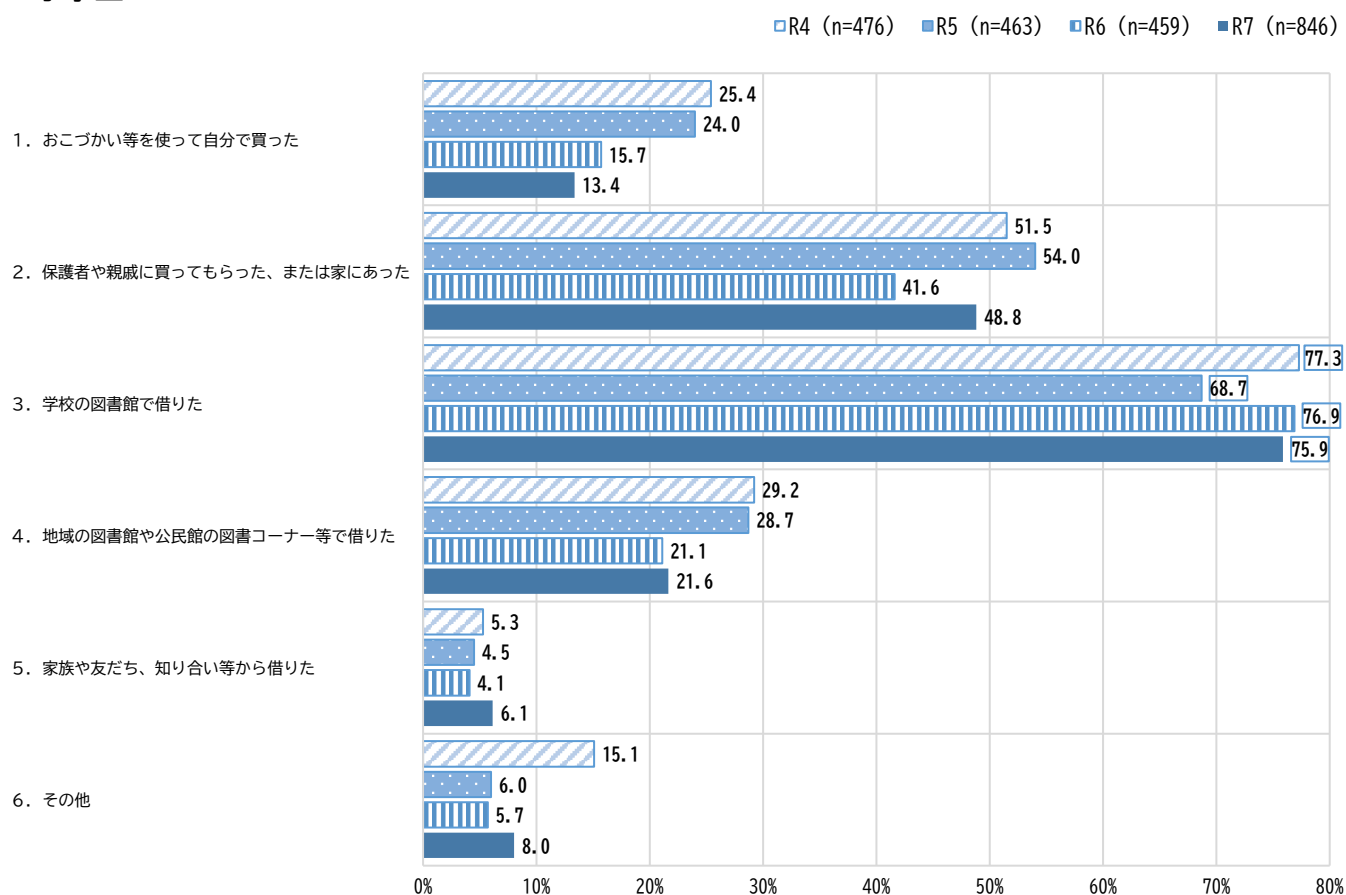


(2)「本を手に入れた方法」の推移（校種別・％）【複数回答】

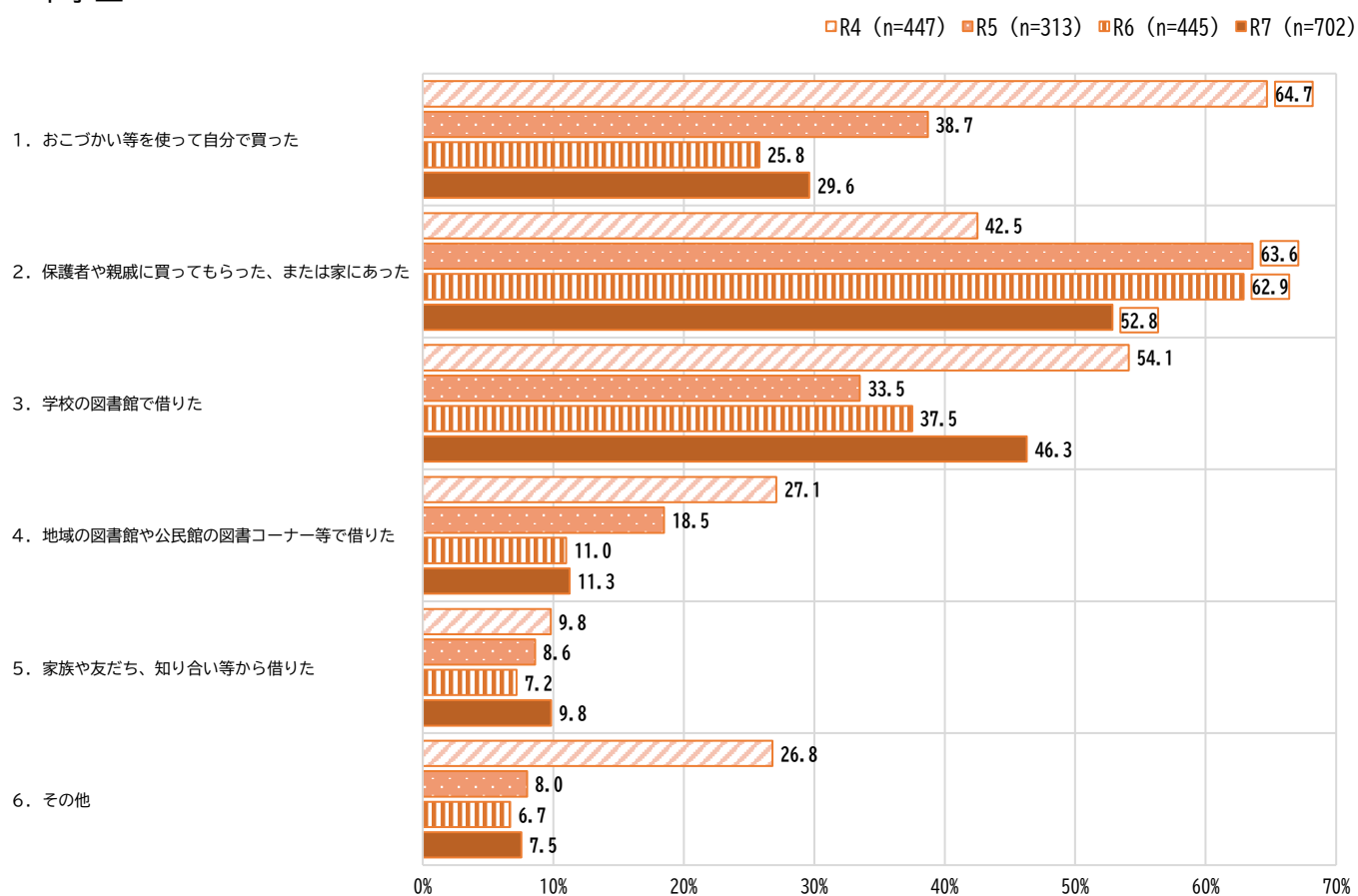
・全体



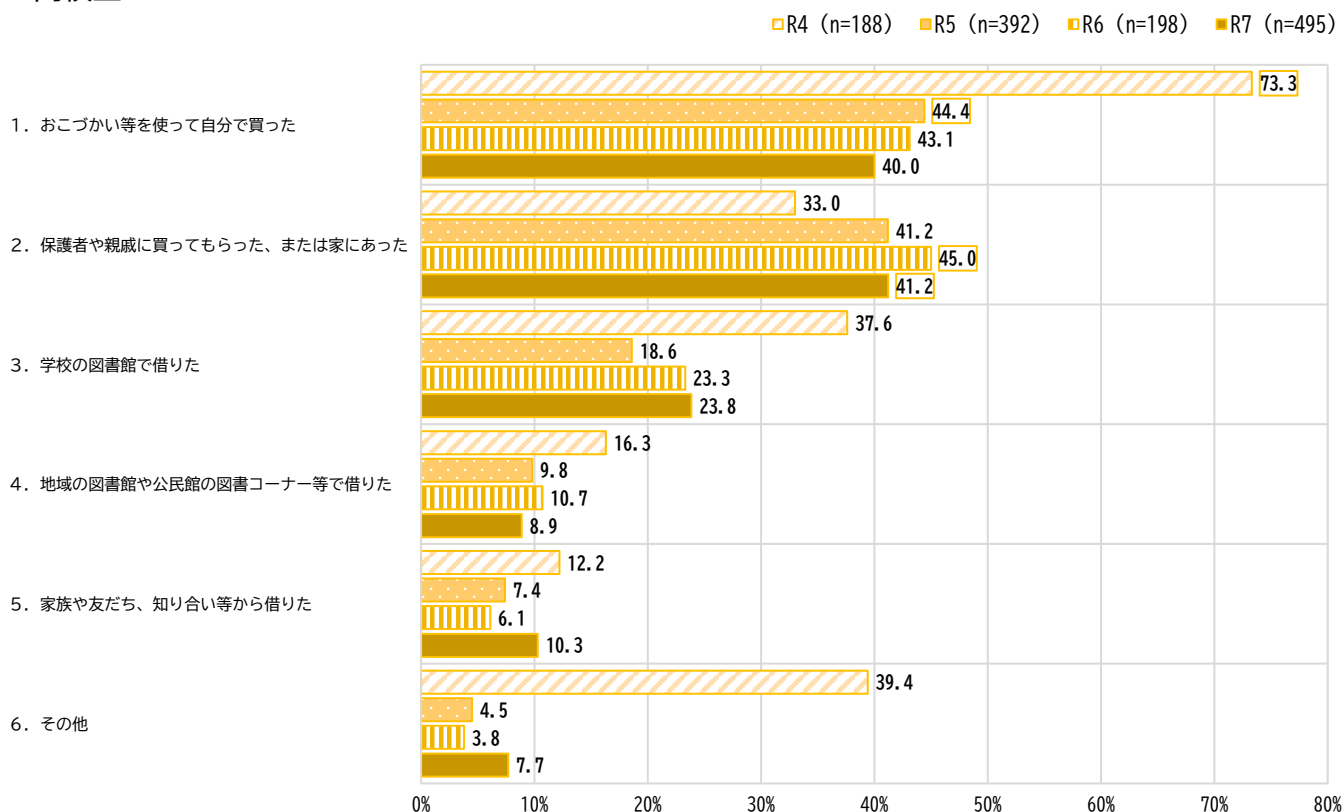
・小学生



・中学生



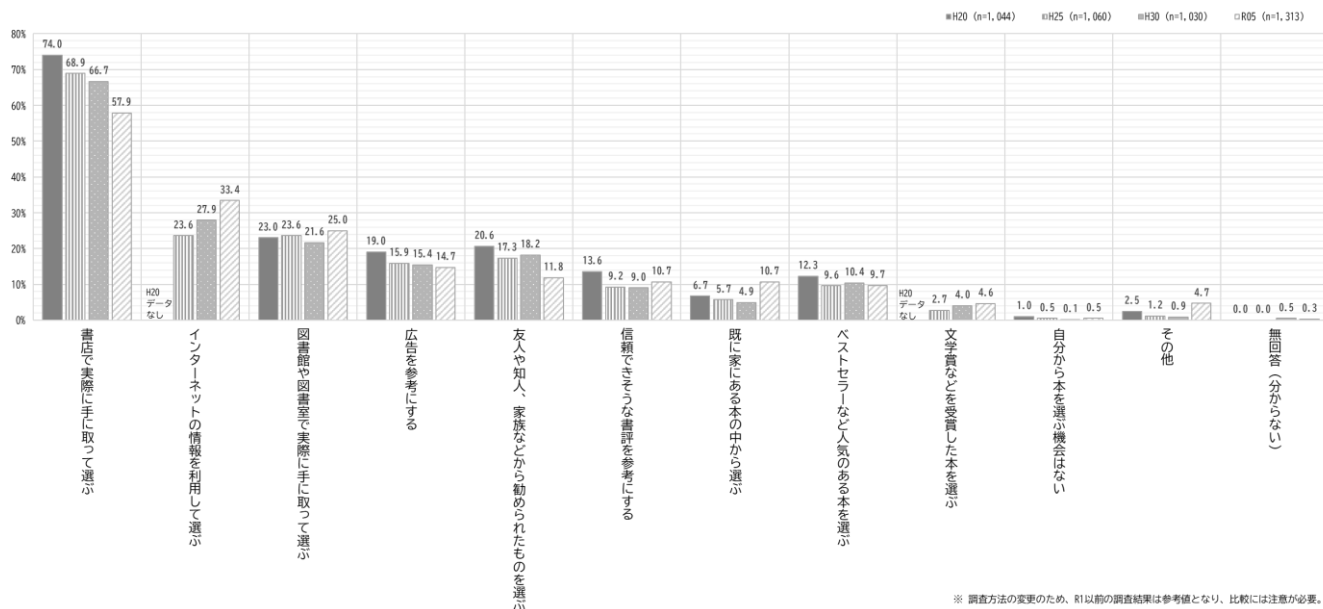
・高校生



(参考) 全国16歳以上の読む本の選び方(%)【複数回答(2つまで)】

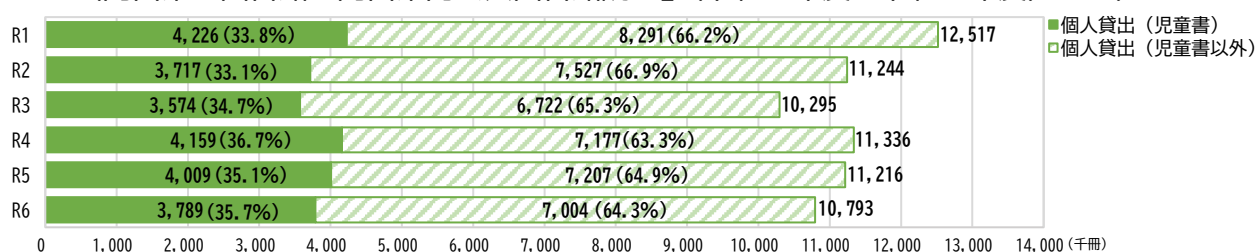
(文化庁国語課『令和5年度「国語に関する世論調査」』より)

※ 「あなたは現在、1か月に大体何冊くらい本を読んでいますか。電子書籍を含みますが、雑誌や漫画は除きます。」【単一回答】という質問に対し、「読まない」と回答した人以外が対象。



(参考) 県内の県立・市町村立図書館全体の合計個人貸出冊数(千冊)

(岡山県立図書館『岡山県内公共図書館調査』(令和2年度～令和7年度)より)

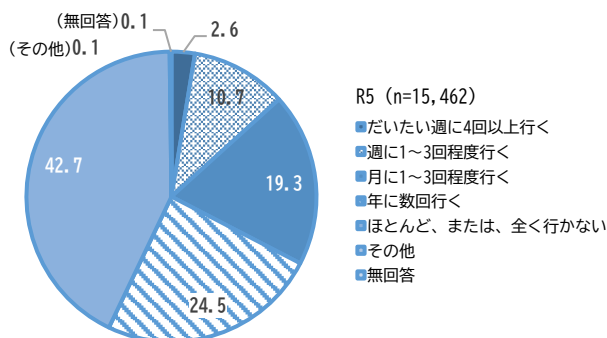


(参考) 学校の図書館・図書室や地域の図書館(電子図書館を含む)への来館頻度(%)【単一回答】
(文部科学省『全国学力・学習状況調査』(令和5年度)より)

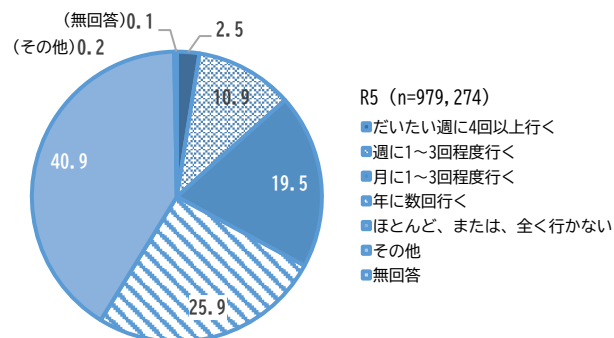
※ 昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするために行く場合が対象。

・小学6年生

岡山県(公立)

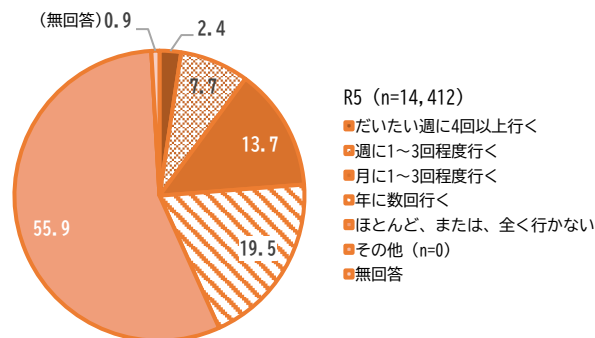


全国(公立)

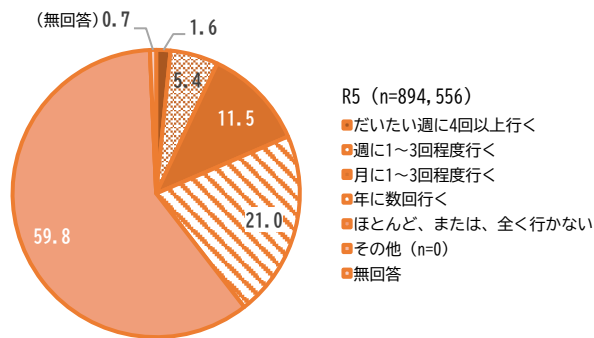


・中学3年生

岡山県(公立)



全国(公立)

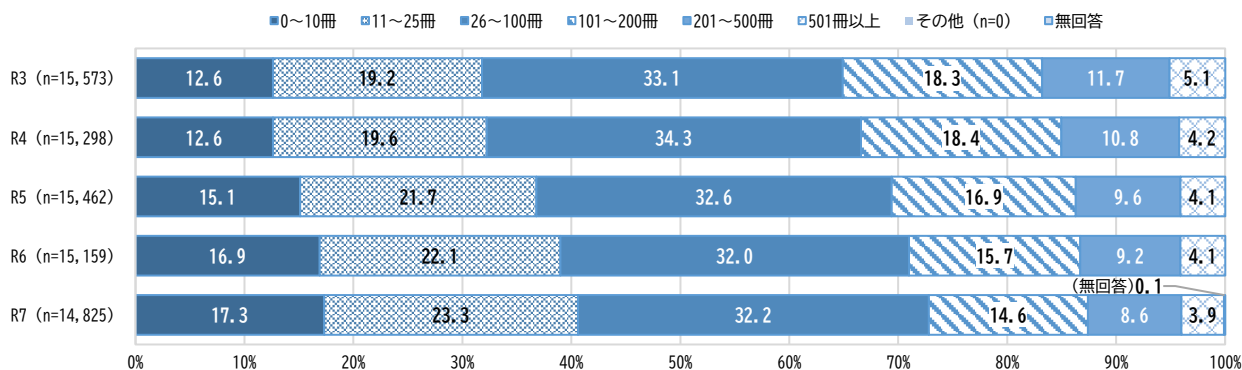


(参考) 家庭の蔵書冊数(%)【単一回答】

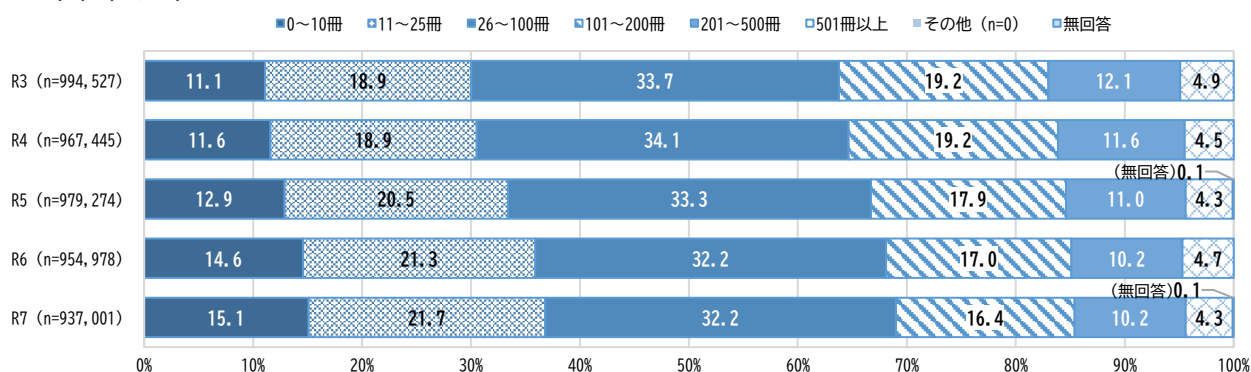
(文部科学省『全国学力・学習状況調査』(令和3年度~令和7年度)より)

・小学6年生

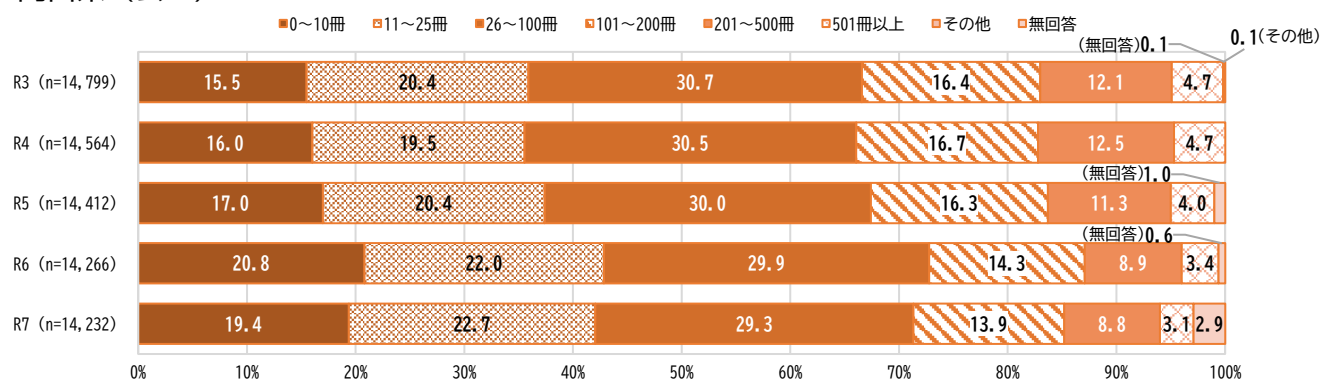
岡山県(公立)



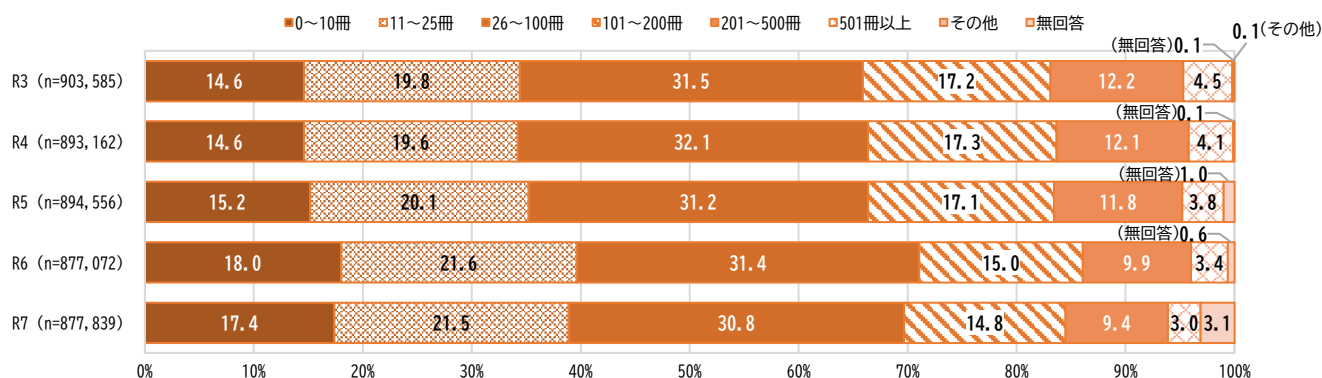
全国(公立)



・ 中学3年生
岡山県（公立）



全国（公立）



令和7年度調査では、全体的に「学校の図書館で借りた」（53.1％）の回答割合が最も高く、令和5・6年度調査で回答割合が最も高かった「保護者や親戚に買ってもらった、または家にあった」（48.4％）の回答割合が2番目に高かった。

小学生については、令和4～6年度調査と同様に「学校の図書館で借りた」（75.9％）の回答割合が最も高く、「保護者や親戚に買ってもらった、または家にあった」（48.8％）が2番目に高かった。中学生については、令和6年度調査と同様に「保護者や親戚に買ってもらった、または家にあった」（52.8％）の回答割合が最も高く、「学校の図書館で借りた」（46.3％）が2番目に高かった。高校生については、令和6年度調査と同様に「保護者や親戚に買ってもらった、または家にあった」（45.0％）の回答割合が最も高く、「おこづかい等を使って自分で買った」（40.0％）が2番目に高かった。校種が上がるにつれて、学校や地域の図書館で本を借りる割合は減少傾向にあり、自分で本を購入する割合は増加傾向にある。また、いずれの校種でも、家庭で本を購入してもらったり、家庭の蔵書を利用したりする割合は高い傾向にある。

全国16歳以上の読む本の選び方をみると、「書店で実際に手に取って選ぶ」の回答割合が最も高いものの、調査年度ごとに減少傾向にある。一方、「インターネットの情報を利用して選ぶ」の回答割合は調査年度ごとに増加傾向にあり、「図書館や図書室で実際に手に取って選ぶ」の回答割合はいずれの調査年度とも20％台を維持している。

県内公立図書館全体の合計個人貸出冊数のうち児童書の占める割合をみると、いずれの調査年度とも30％台を維持している。

また、県内小学6年生・中学3年生の学校図書館等への来館頻度をみると、中学3年生のほうが小学6年生よりも来館頻度が落ちるものの、小学6年生の32.6％、中学3年生の23.8％が、月に1回程度以上学校図書館等で本を読んだり借りたりしている。

以上から、選書や本の入手において、図書館は一定のニーズを得ており、特に小学生にとっては、多様な本に触れるための身近な環境として、学校図書館が大きな役割を果たしていることがうかがえる。

また、小学6年生・中学3年生の家庭の蔵書冊数をみると、本県・全国ともに「26～100冊」の回答割合が最も高く、小学6年生については、調査年度ごとにわずかに減少傾向にある。家庭の蔵書や読書活動は、校種に関わらず読書のきっかけとなりうることから、家庭の読書環境の整備や読書活動の支援も引き続き求められている。

2. 文字・活字媒体の利用

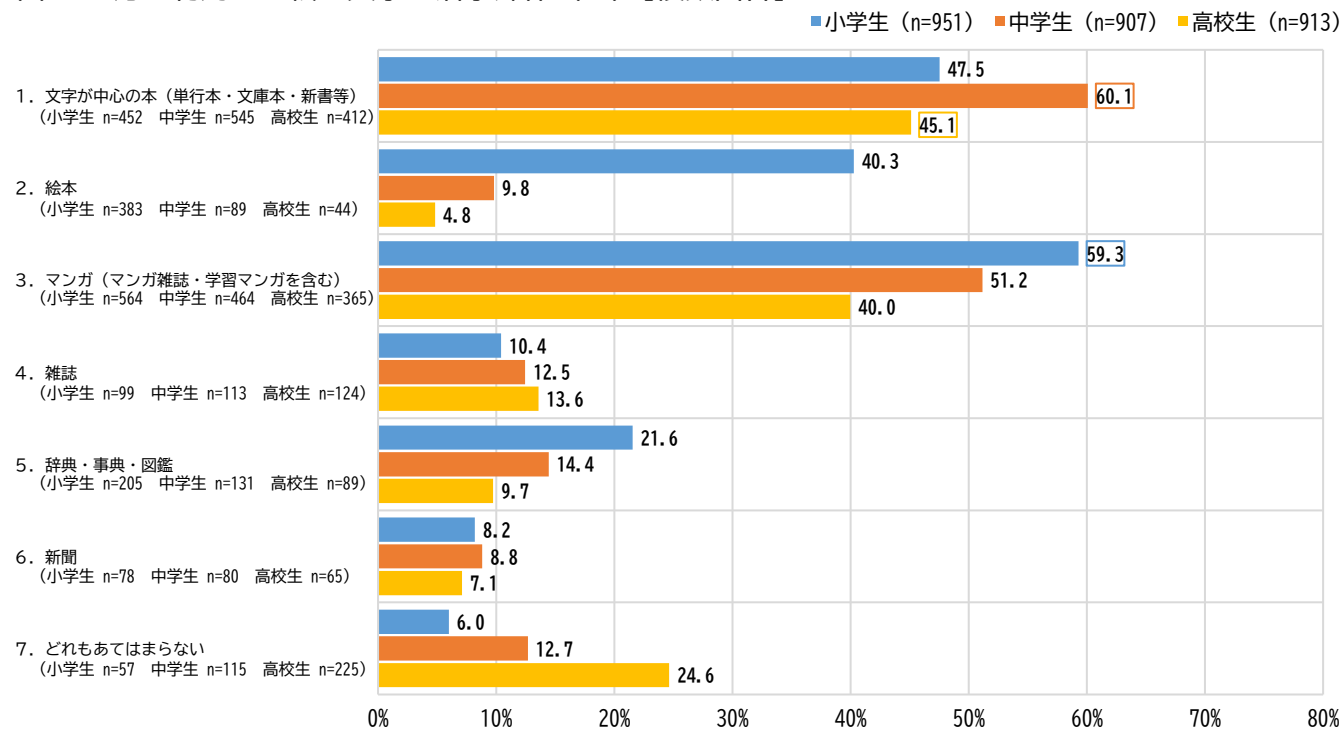
① 1 か月に利用した文字・活字媒体

本調査の対象者全員に対して、9月1か月間に、「読んだり見たり調べたりしたもの」を、紙媒体と電子媒体それぞれについて質問した。

※ 朝読書や授業の時間に読んだもの、調べ学習や宿題、趣味等のために使ったものを含む。

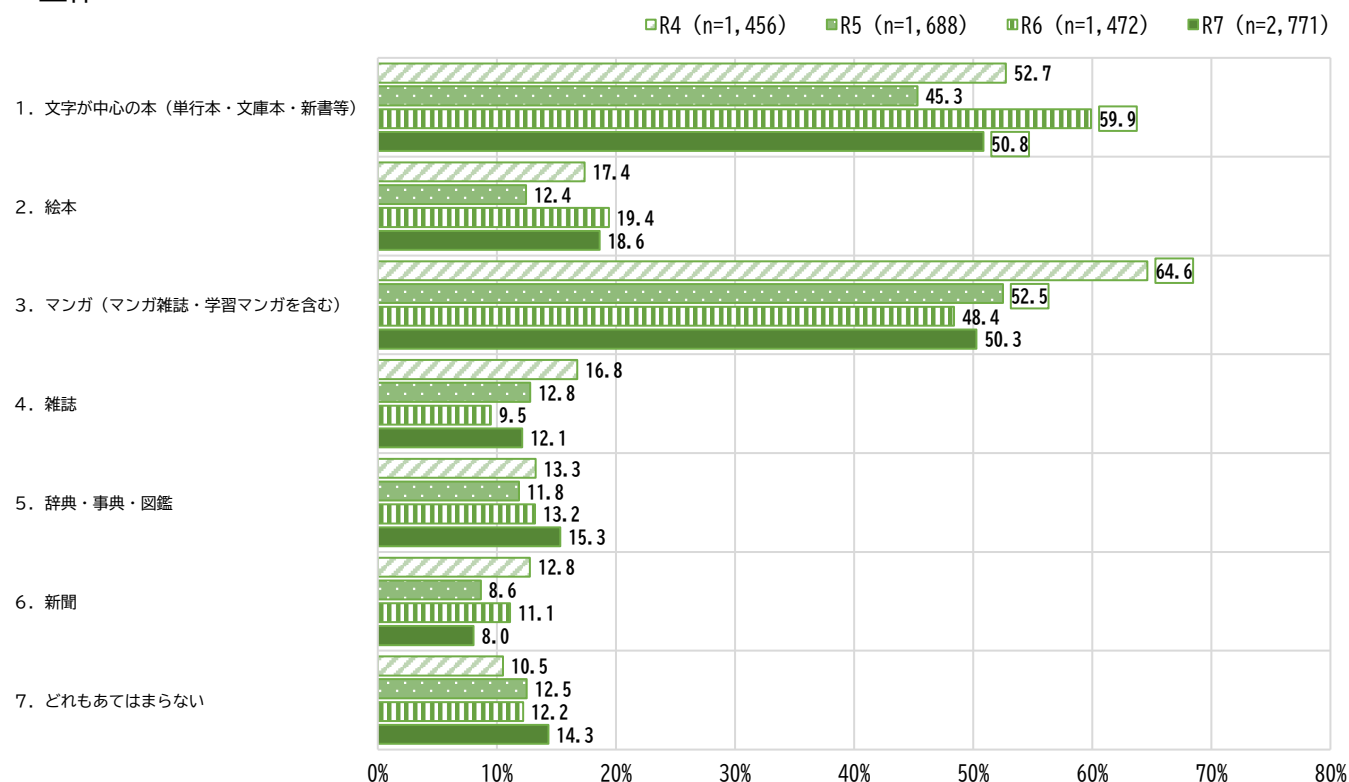
※ 本問における「読んだり見たり調べたりしたもの」には、教科書・学習参考書、絵・写真のみの画集や写真集を含まない。

(1) 1 か月に利用した紙の文字・活字媒体（％）【複数回答】

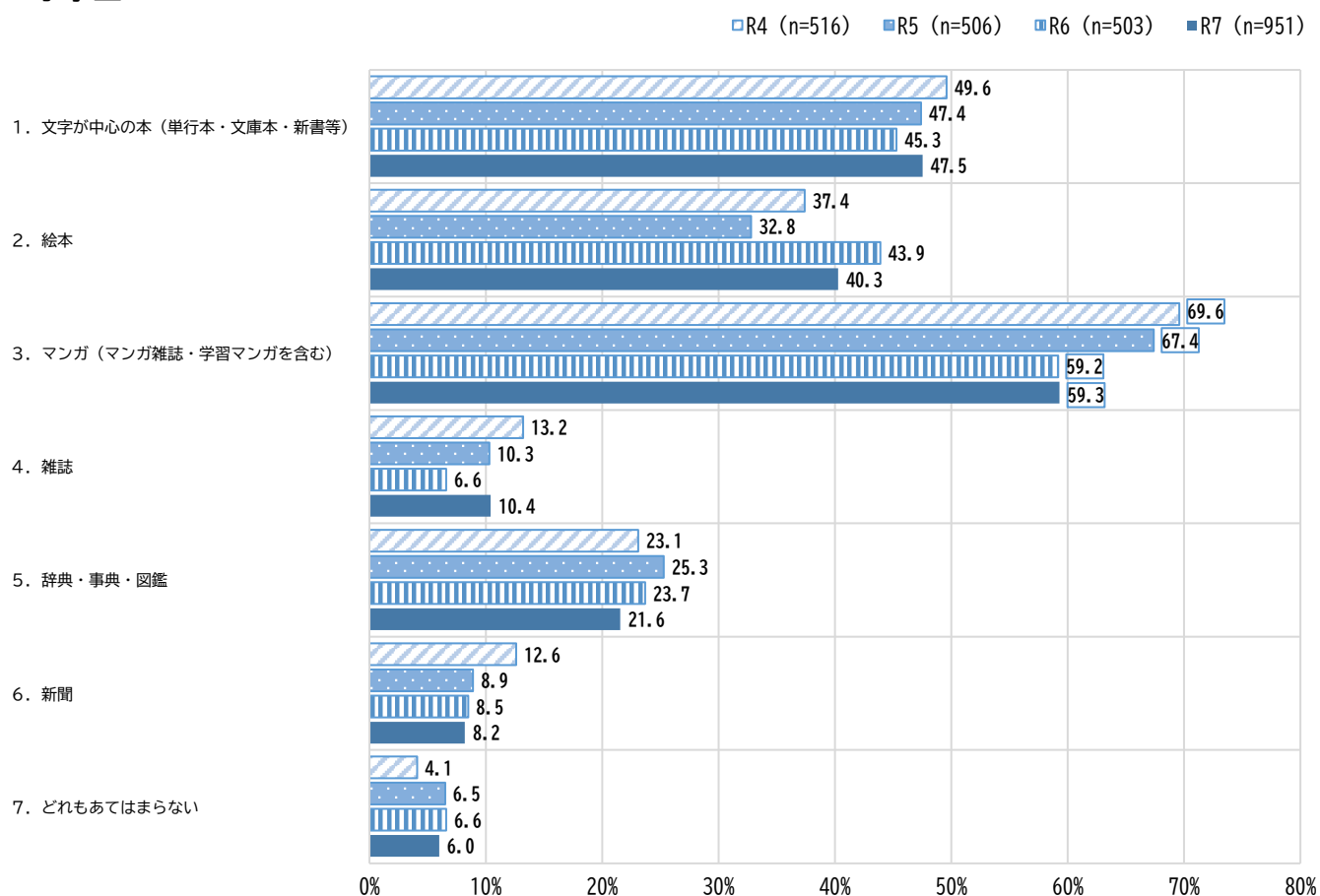


(2) 「1 か月に利用した紙の文字・活字媒体」の推移（校種別・％）【複数回答】

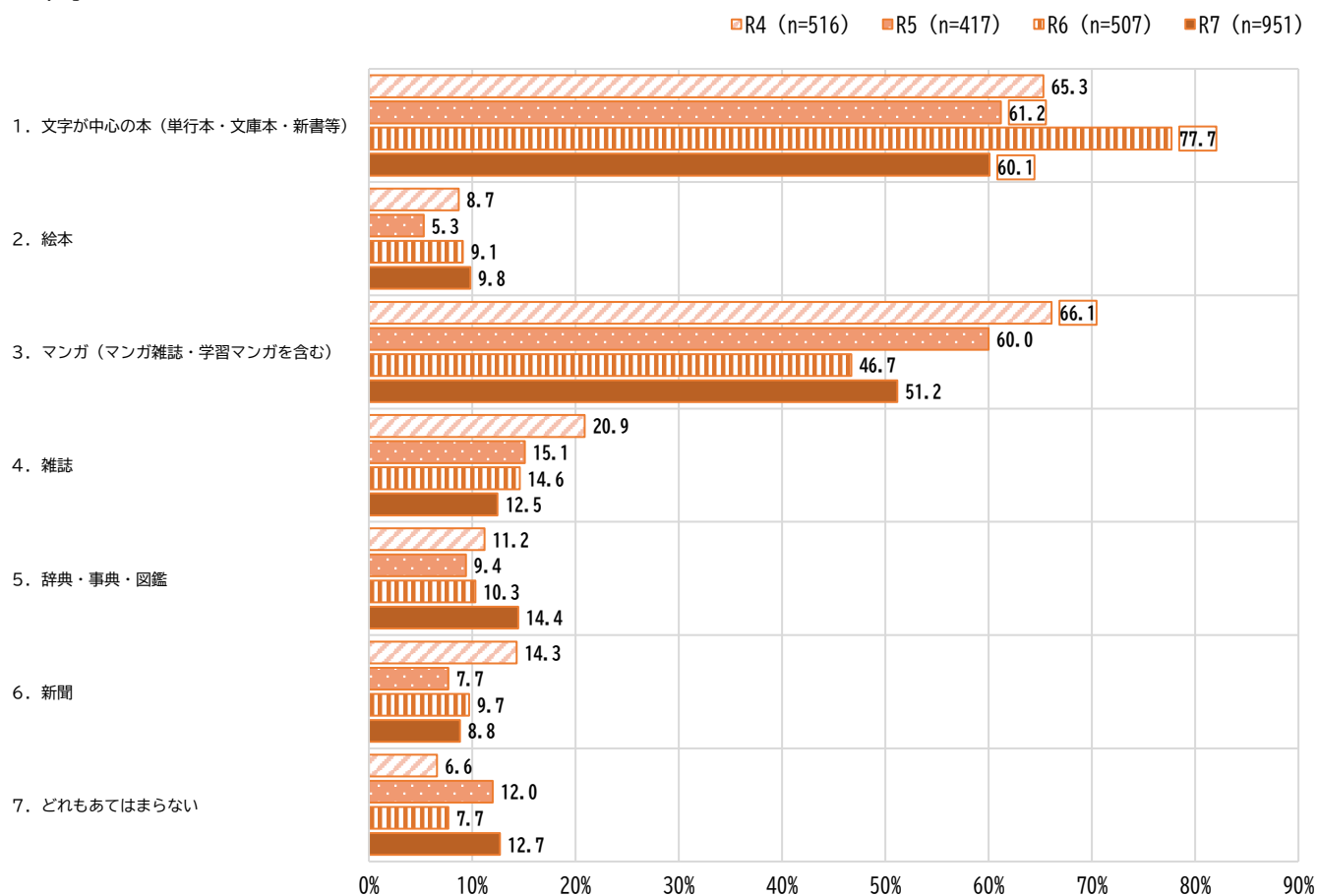
・全体



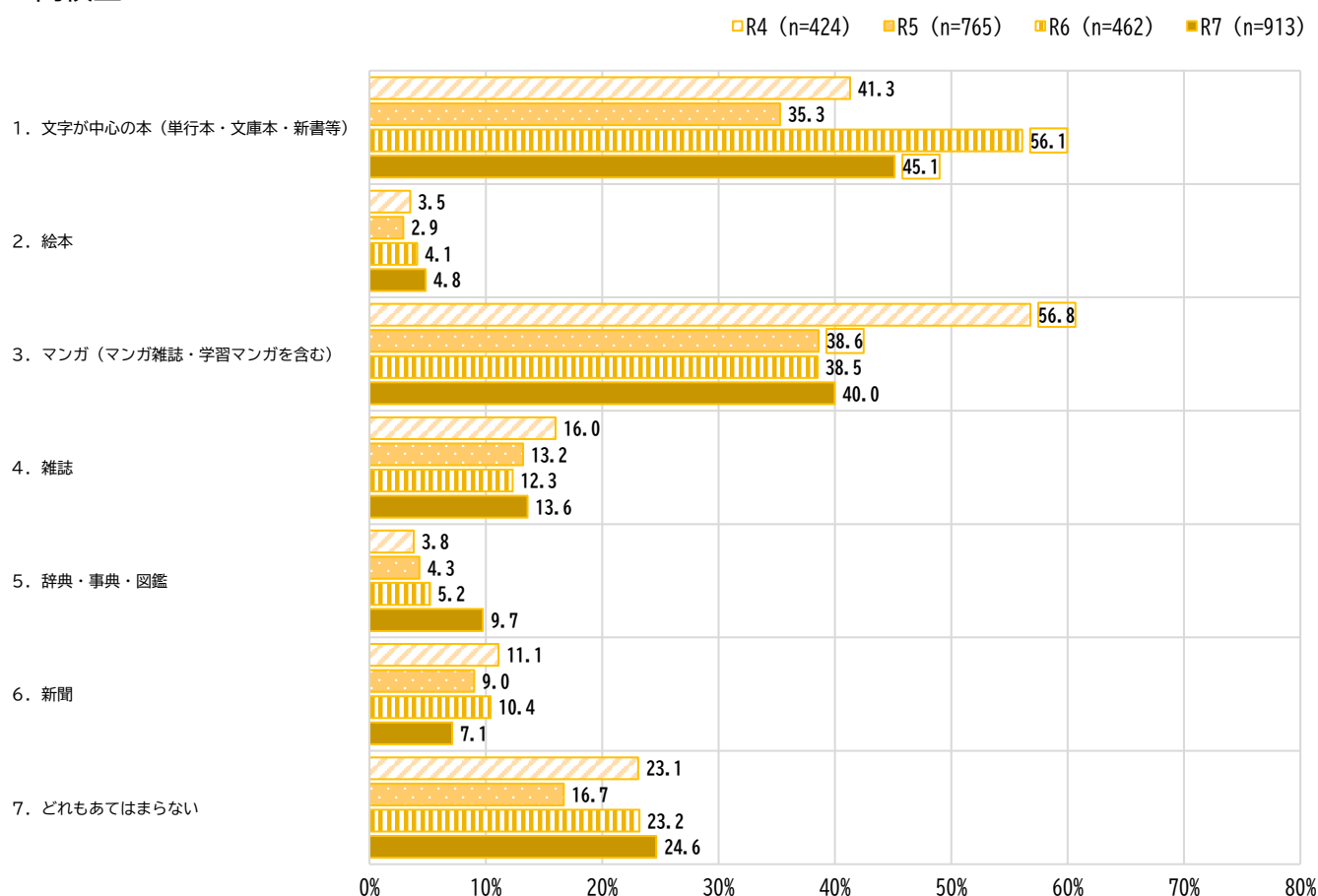
・小学生



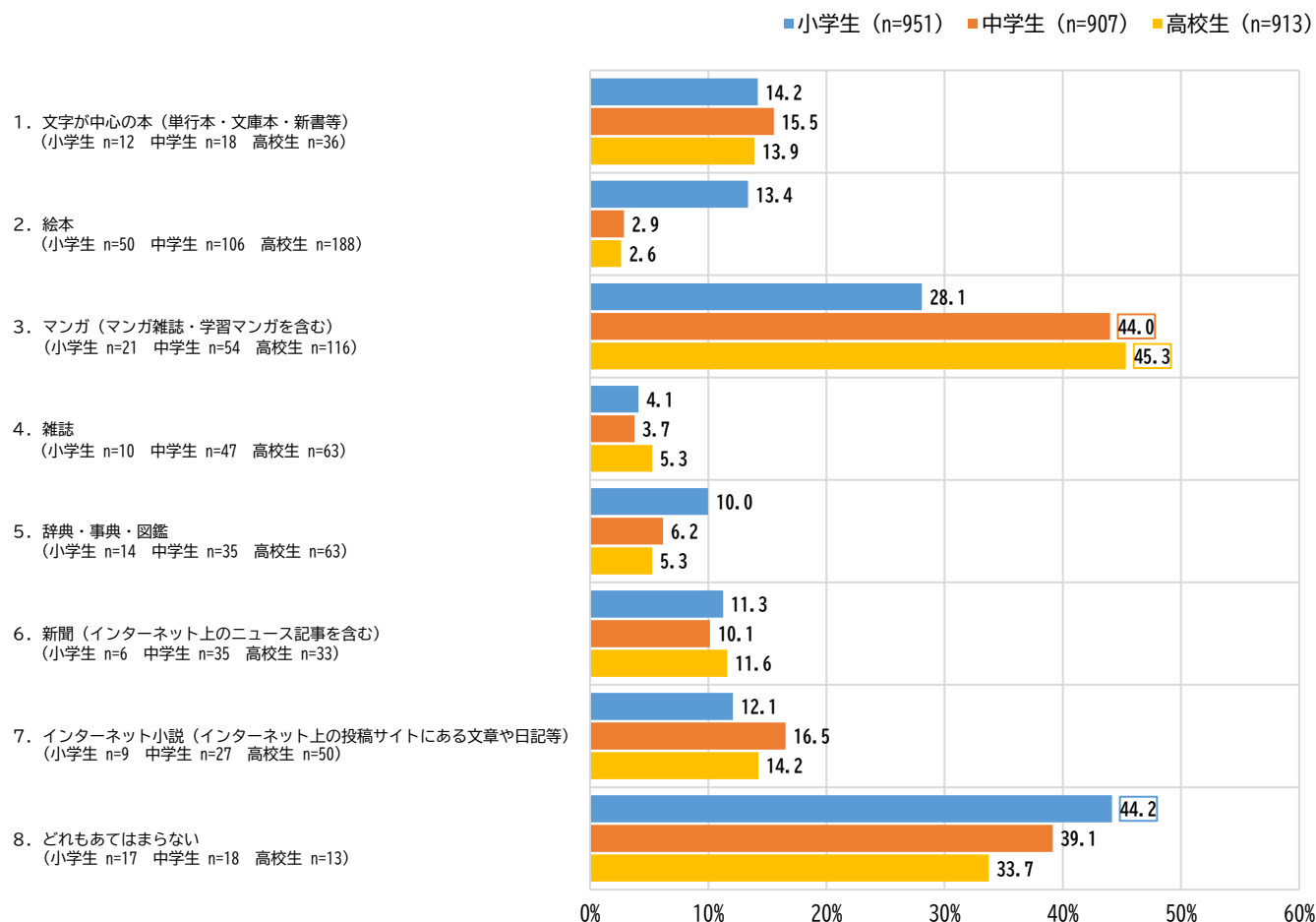
・中学生



・高校生

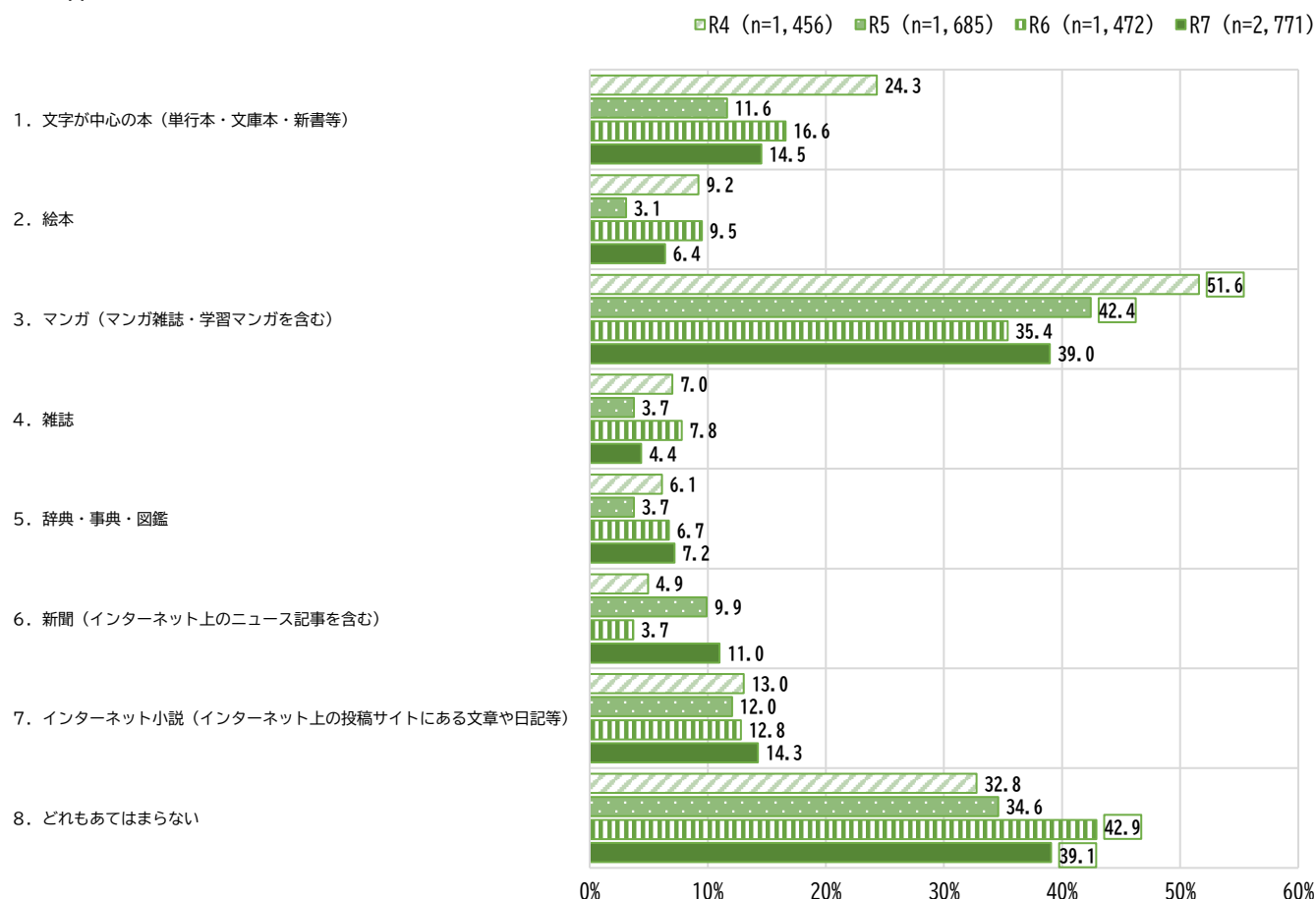


(3) 1 か月に利用した電子の文字・活字媒体（％）【複数回答】

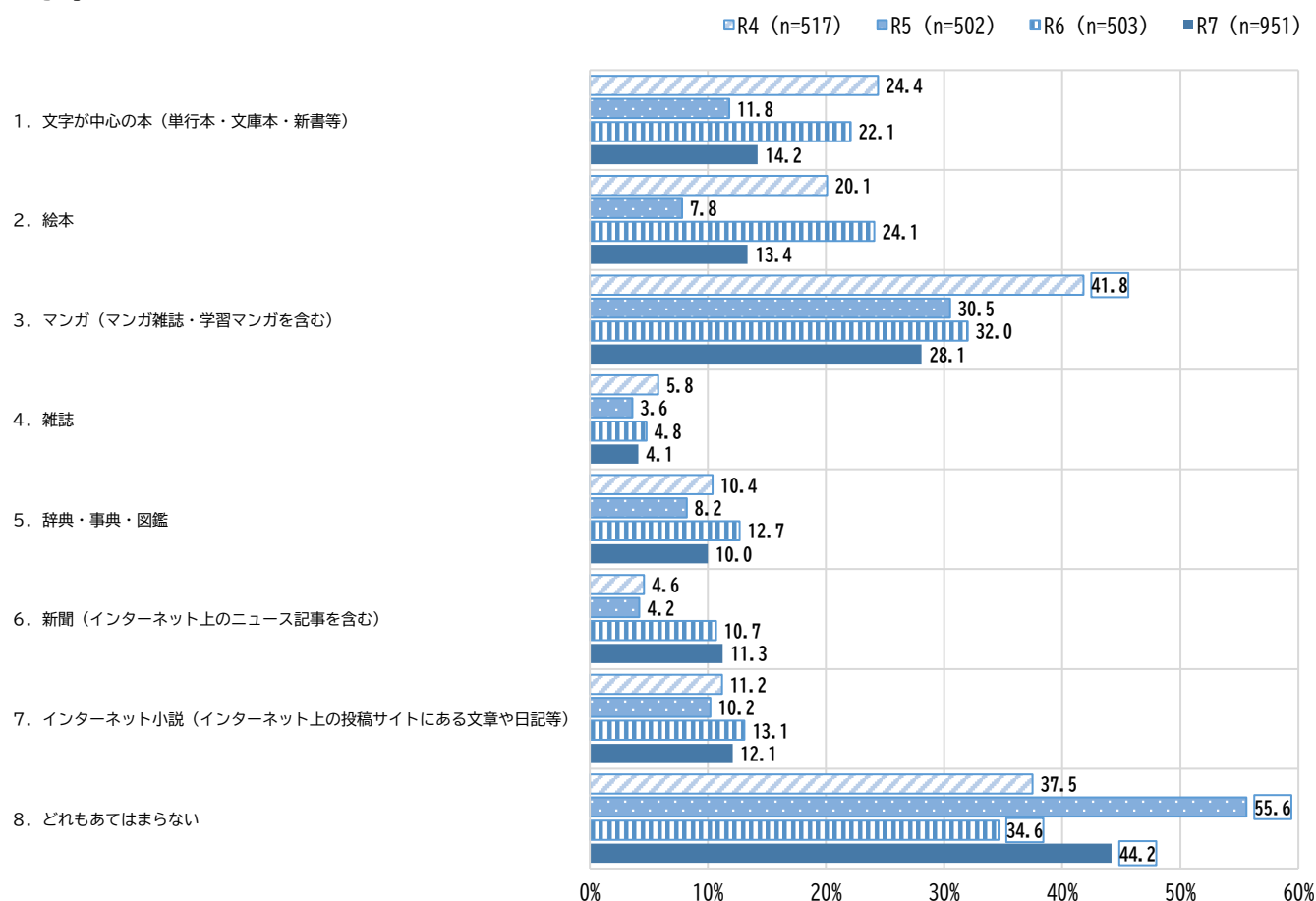


(4)「1 か月に利用した電子の文字・活字媒体」の推移（校種別・％）【複数回答】

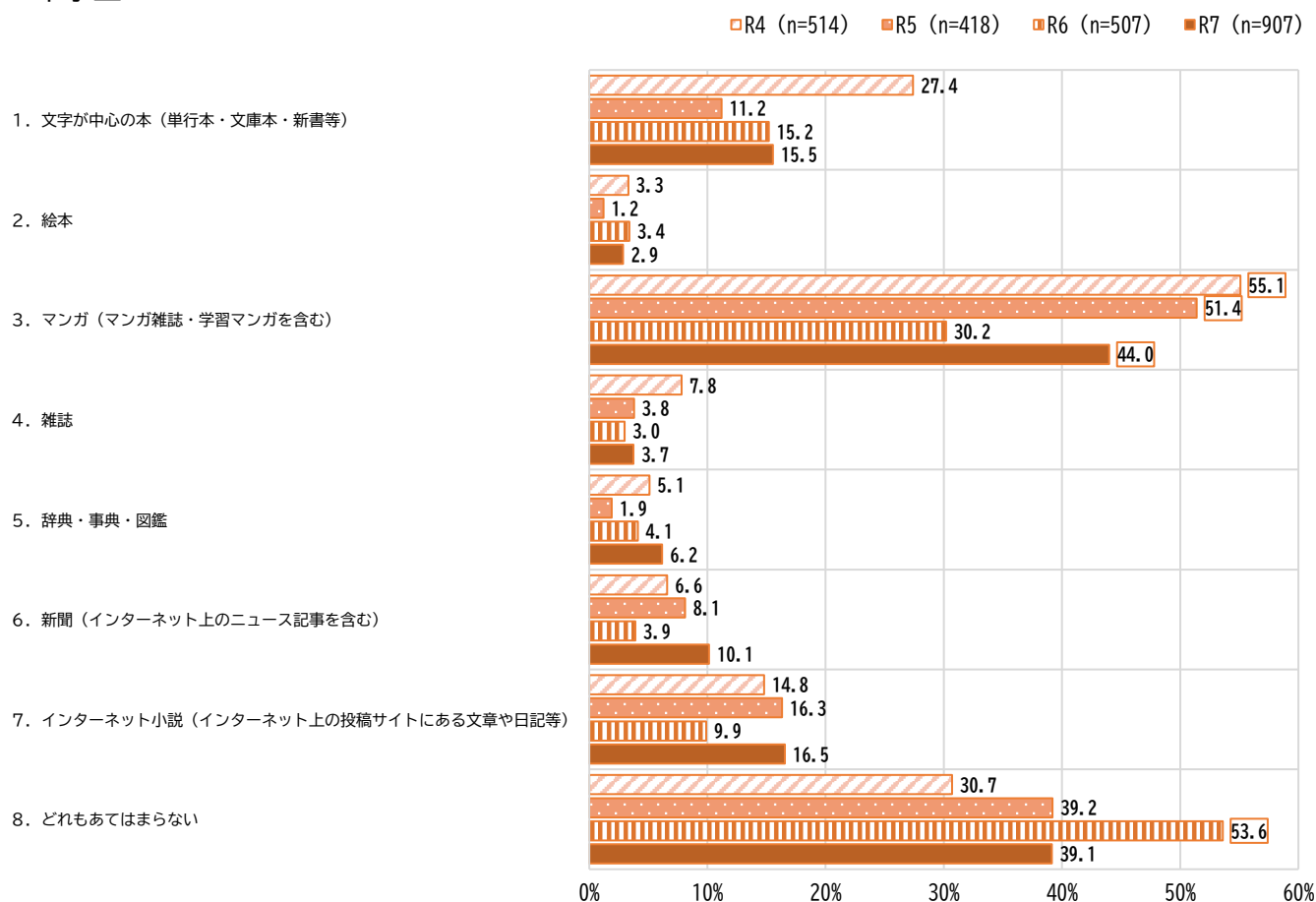
・全体



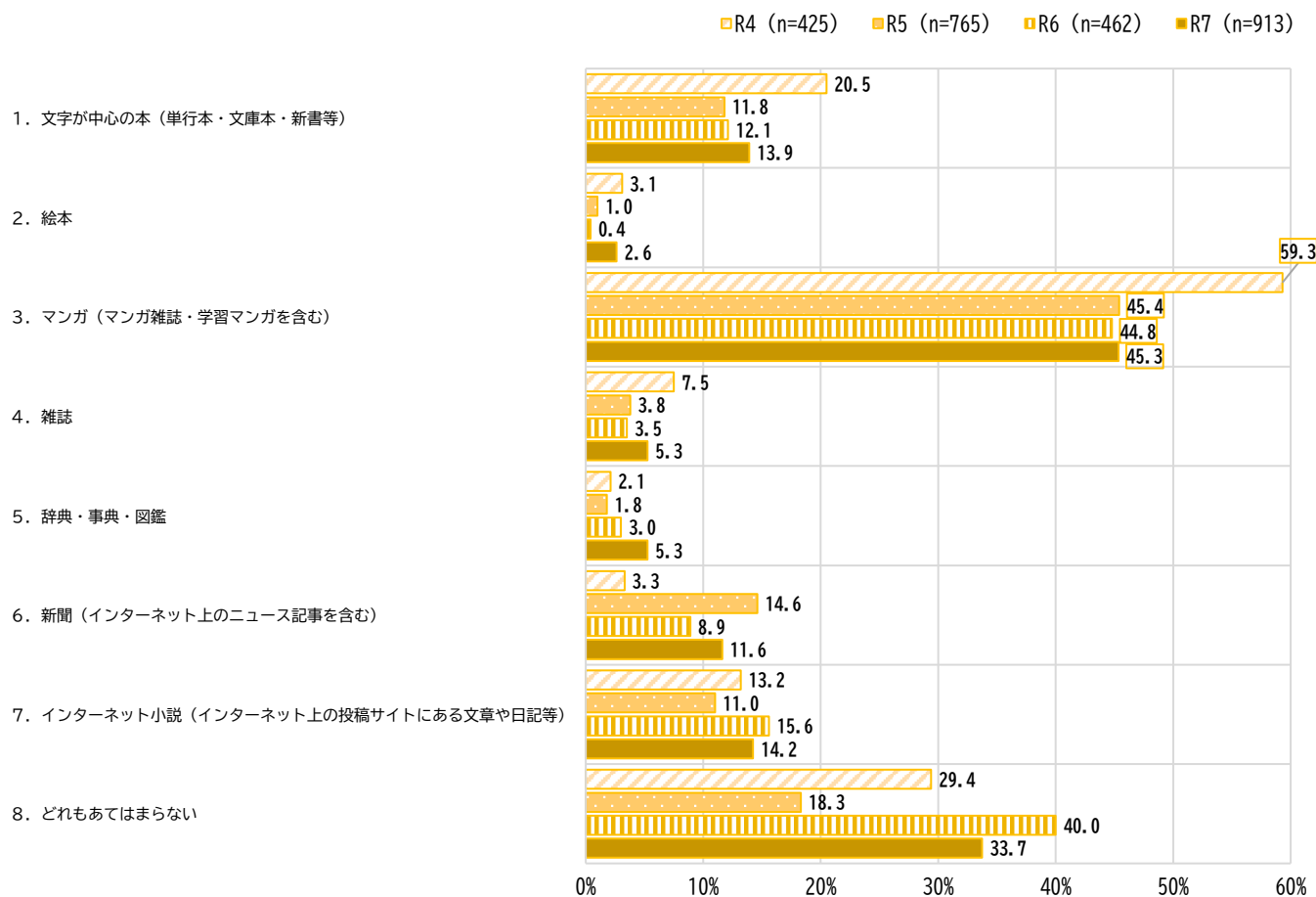
・小学生



・中学生



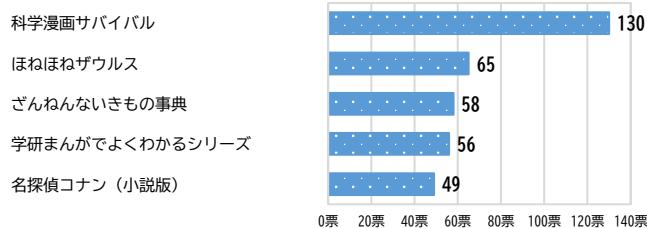
・高校生



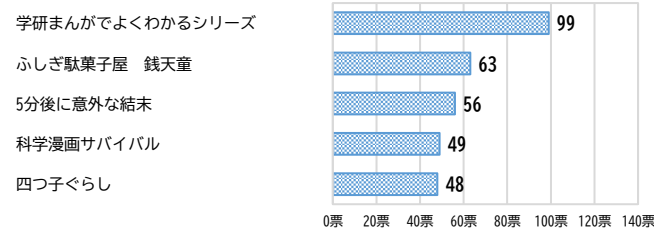
(参考) 全国小4～高3が今の学年になってから読んだ本(票)【自由記述・3つまで】
(公益社団法人全国学校図書館協議会『第70回学校読書調査(2025年)』より)

・小学生(4～6年生)

男子

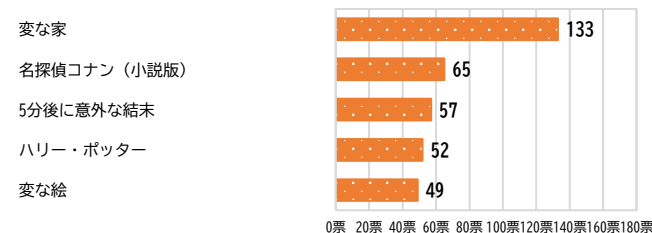


女子

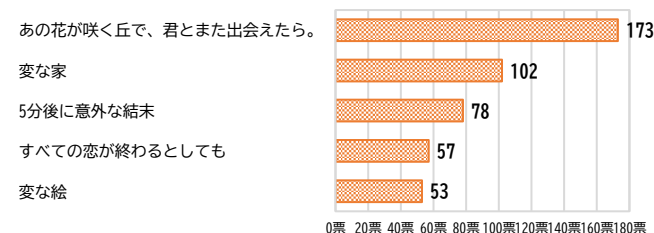


・中学生

男子

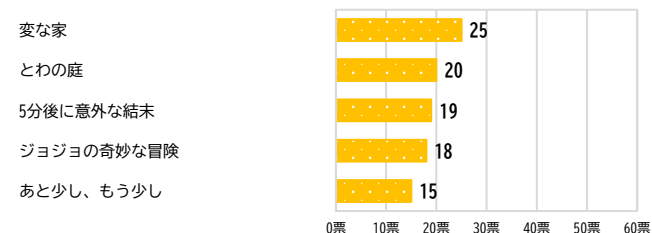


女子

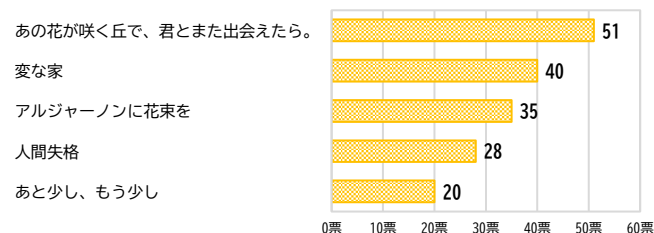


・高校生

男子



女子



令和7年度調査では、紙の文字・活字媒体の利用率は、小学生 94.0%>中学生 87.3%>高校生 75.4%と、校種が上がるにつれて低くなり、全体的に「文字が中心の本」(50.8%)と「マンガ」(50.3%)の回答割合が高かった。一方、電子の文字・活字媒体の利用率は、小学生 55.8%<中学生 60.9%<高校生 66.3%と、校種が上がるにつれて高くなり、全体的に「どれもあてはまらない」(39.1%)と「マンガ」(39.0%)の回答割合が高かった。

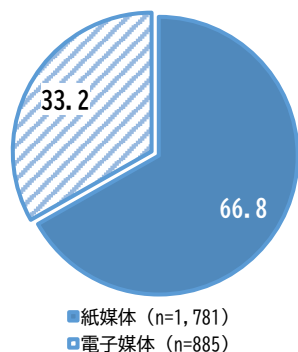
小学生については、紙媒体では「マンガ」(59.3%)、「文字が中心の本」(47.5%)、「絵本」(40.3%)、電子媒体では「どれもあてはまらない」(44.2%)、「マンガ」(28.1%)、「文字が中心の本」(14.2%)の順に回答割合が高かった。中学生については、紙媒体では「文字が中心の本」(60.1%)、「マンガ」(51.2%)、「辞典・事典・図鑑」(14.4%)、電子媒体では「マンガ」(44.0%)、「どれもあてはまらない」(39.1%)、「インターネット小説」(16.5%)の順に回答割合が高かった。高校生については、紙媒体では「文字が中心の本」(45.1%)、「マンガ」(40.0%)、「どれもあてはまらない」(24.6%)、電子媒体では「マンガ」(45.3%)、「どれもあてはまらない」(33.7%)、「インターネット小説」(14.2%)の順に回答割合が高かった。紙媒体・電子媒体ともに、校種が上がるにつれて「絵本」や「辞典・事典・図鑑」の回答割合は減少傾向にあり、いずれの校種でも「マンガ」の回答割合が高かった。

全国小4～高3が今の学年になってから読んだ本をみると、幅広い校種でよく読まれていたのが、短編集の「5分後に意外な結末」で、短時間で読むことができ、タイムパフォーマンスに優れた本が人気であることがうかがえる。また、全国の小学生によく読まれていたのが、「科学漫画サバイバル」や「学研まんがでよくわかるシリーズ」で、分かりやすい文章と漫画で読みやすい本が人気であることがうかがえる。

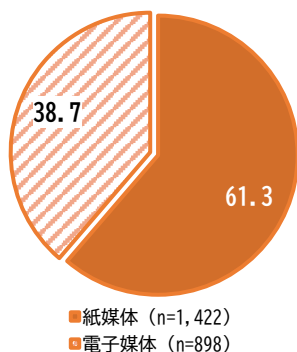
(5) 1 か月に利用した文字・活字媒体に占める紙媒体と電子媒体の割合（％）【複数回答】

※ グラフに付加している「n」は、「どれもあてはまらない」以外の選択肢への回答者数の和とする。調査結果の数値（％）は、回答者数全体（紙媒体と電子媒体における「どれもあてはまらない」以外の選択肢への回答者数の和）に対する割合とする。

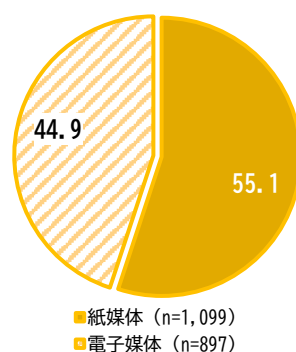
・小学生



・中学生



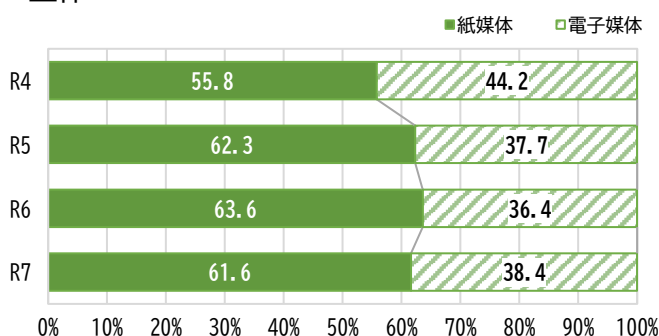
・高校生



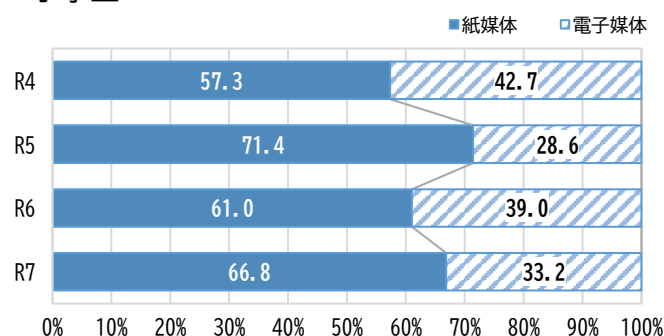
(6) 「1 か月に利用した文字・活字媒体に占める紙媒体と電子媒体割合」の推移（校種別・％）【複数回答】

※ 調査結果の数値（％）は、回答者数全体（紙媒体と電子媒体における「どれもあてはまらない」以外の選択肢への回答者数の和）に対する割合とする。

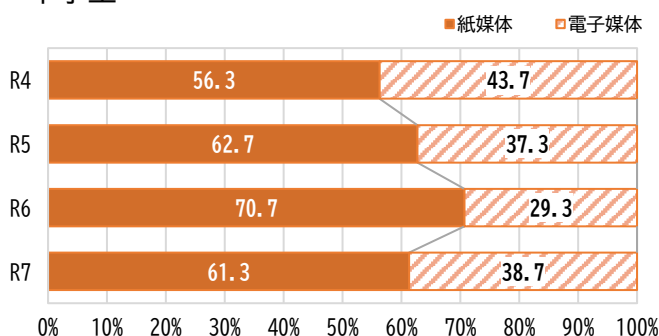
・全体



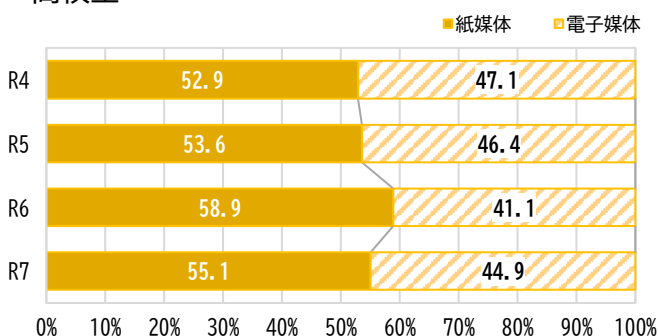
・小学生



・中学生

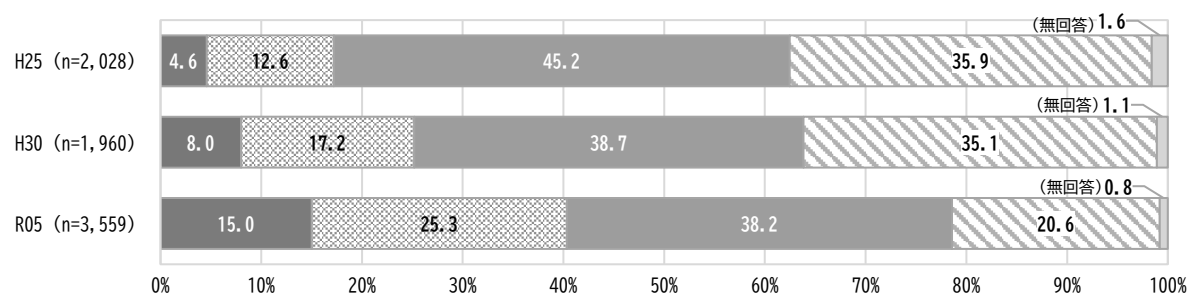


・高校生



(参考) 全国16歳以上の電子書籍（雑誌や漫画を含む）読書経験（％）【単一回答】
（文化庁国語課『令和5年度「国語に関する世論調査」』より）

■よく利用する ■たまに利用する ■紙の本・雑誌・漫画しか読まない □紙の本・雑誌・漫画も電子書籍も読まない ■無回答（分からない）

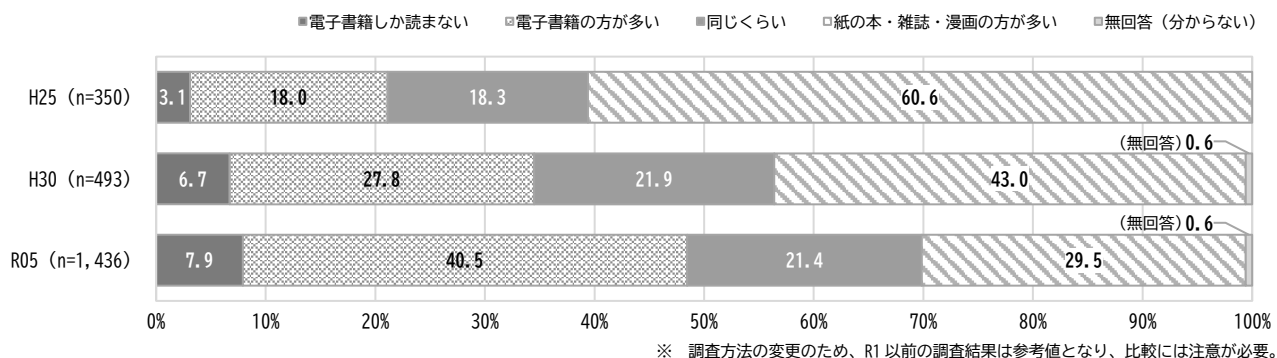


※ 調査方法の変更のため、R1以前の調査結果は参考値となり、比較には注意が必要。

(参考) 全国16歳以上の利用する電子書籍と紙の本の割合(%)【単一回答】

(文化庁国語課『令和5年度「国語に関する世論調査」』より)

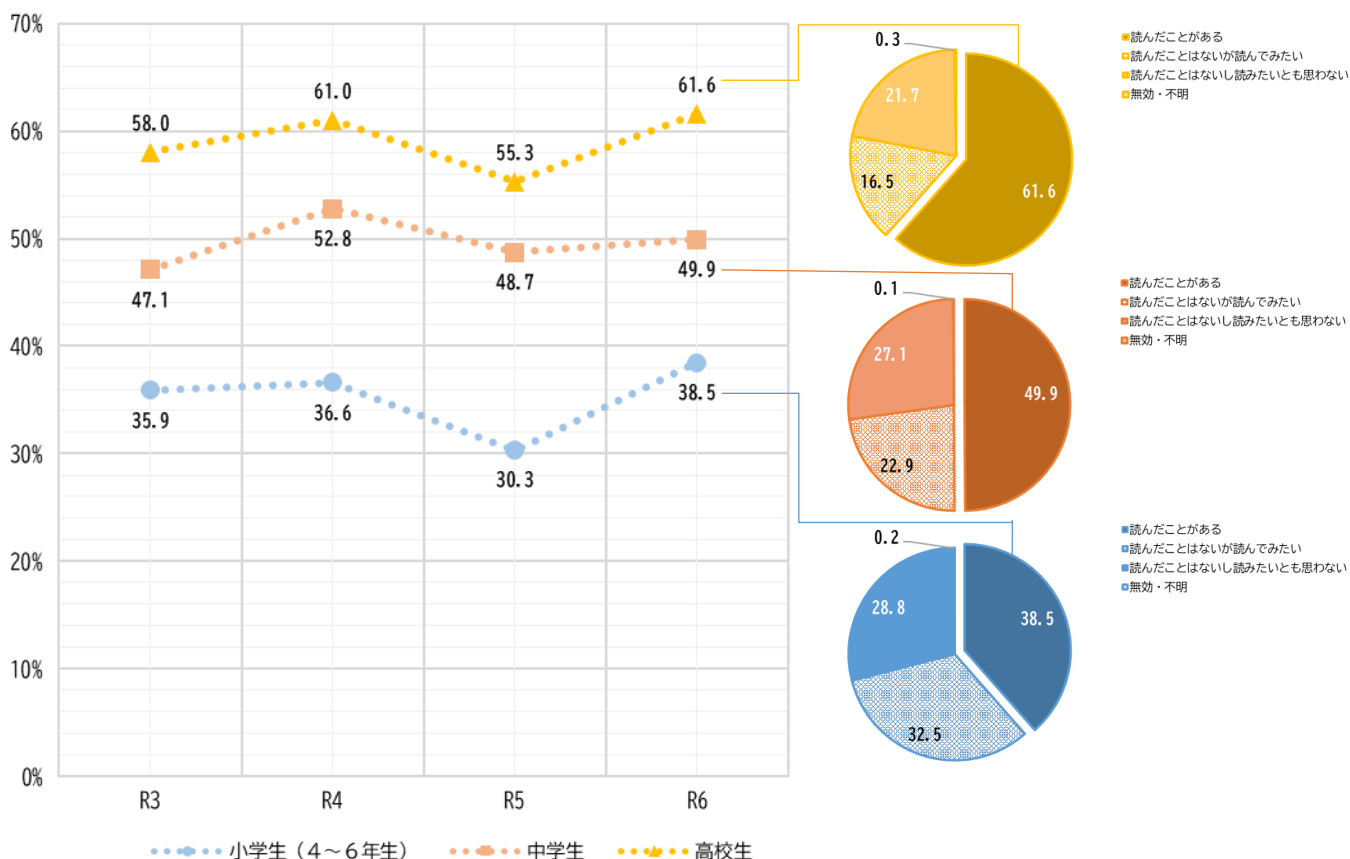
※ 「あなたは、ふだん、電子書籍を利用していますか。雑誌や漫画も含みます。」【単一回答】という質問に対し、「よく利用する」「たまに利用する」と回答した人が対象。



(参考) 全国小4～高3の電子書籍読書経験(%)【単一回答】

(公益社団法人全国学校図書館協議会『第69回学校読書調査(2024年)』より)

※ 電子教科書、新聞・雑誌の電子版を含まない。



令和7年度調査では、全体的に電子媒体より紙媒体の割合が高く(61.6%>38.4%)、令和4～6年度調査と同様の傾向がみられた。

電子媒体の割合をみると、小学生については33.2%で、令和6年度より低下した一方、中学生については38.7%、高校生については44.9%で、いずれも令和6年度より上昇した。いずれの校種とも紙媒体の割合が高くはあるが、校種が上がるにつれて電子媒体の割合が増加傾向にある。

全国16歳以上の電子書籍読書経験をみると、紙の本・雑誌・漫画しか読まない人の割合が最も高いものの、電子書籍を利用する人の割合は調査年度ごとに増加傾向にある。また、電子書籍を利用する人においては、紙の本よりも電子書籍を利用する人の割合が増加傾向にある。

② 1 か月の読書冊数と利用した文字・活字媒体の関係

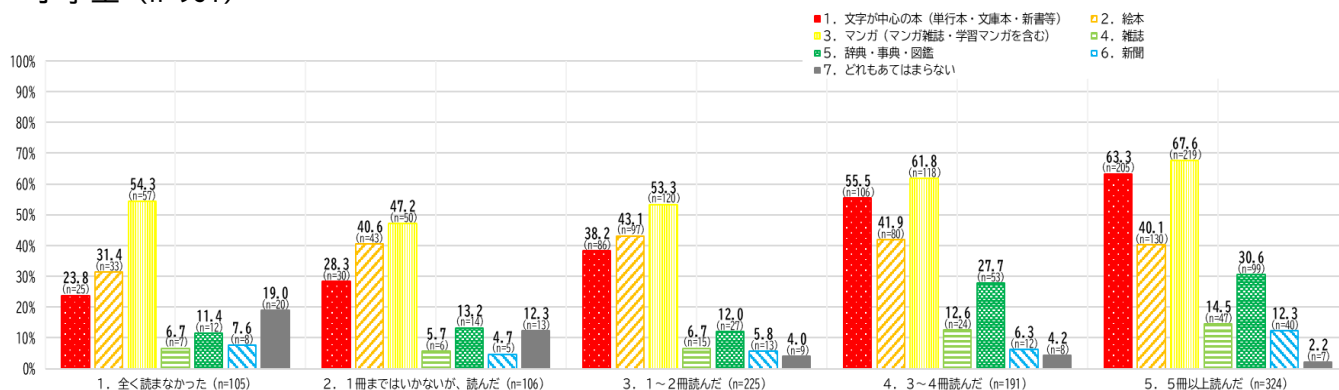
問1（1か月の読書冊数）と、問3（1か月に利用した文字・活字媒体）の回答結果について、相関を分析するため、クロス集計を行った。

※ 各問において含むもの（○）及び含まないもの（×）

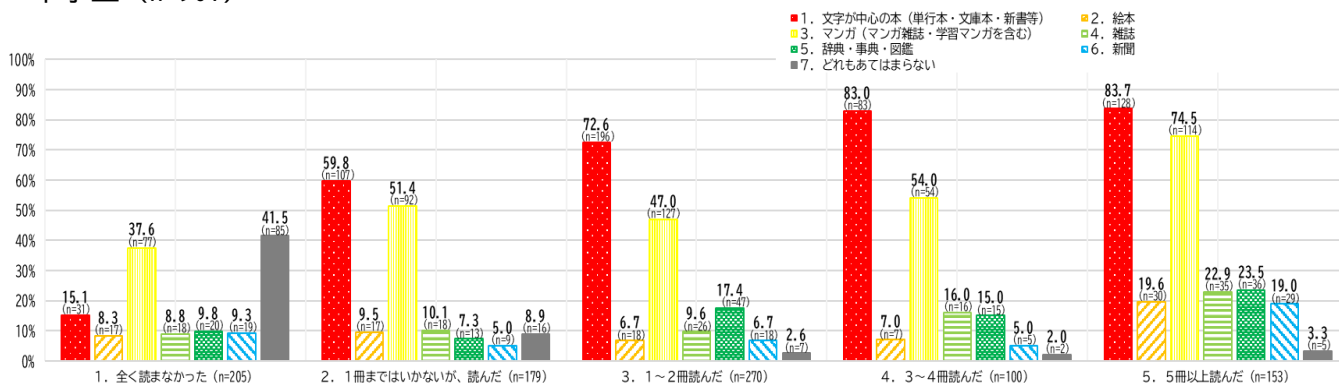
	①	②	③
	問1 【本】	問3 【読んだり見たり調べたりしたもの】	
		紙のもの	電子のもの
文字が中心の本（単行本・文庫本・新書等）	○	○	○
絵本	○	○	○
マンガ（マンガ雑誌・学習マンガを含む）	×	○	○
雑誌	×	○	○
辞典・事典・図鑑	×	○	○
新聞（③のみ：インターネット上のニュース記事を含む）	×	○	○
インターネット小説（インターネット上の投稿サイトにある文章や日記等）	○	×	○
教科書・学習参考書	×	×	×
絵・写真のみの画集や写真集	×	×	×

(1) 1 か月の読書冊数と利用した紙の文字・活字媒体（％）【複数回答】

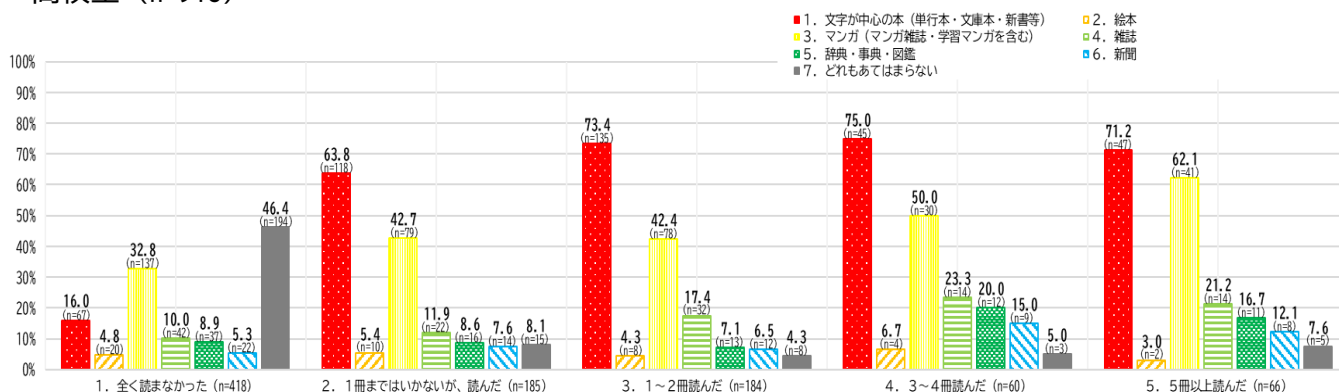
・小学生（n=951）



・中学生（n=907）

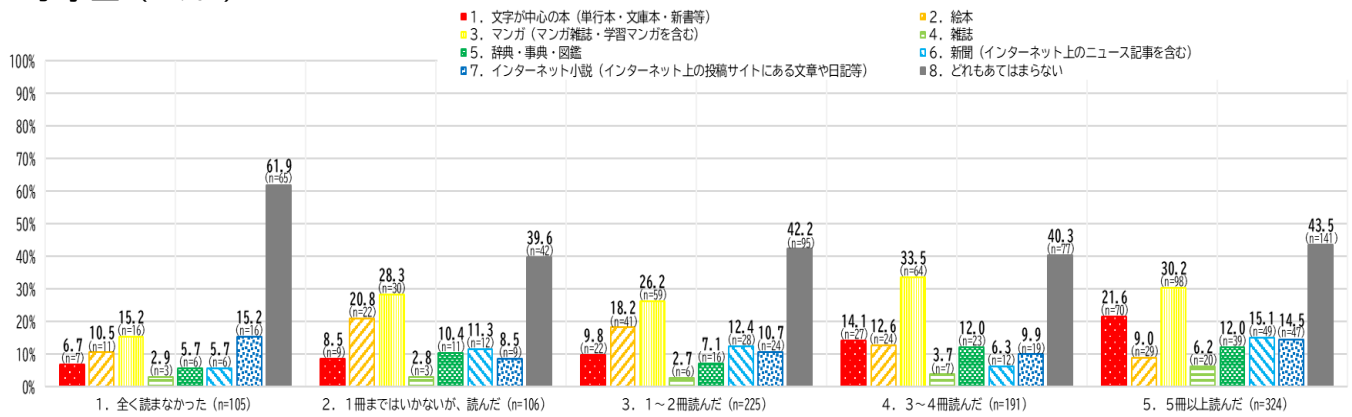


・高校生（n=913）

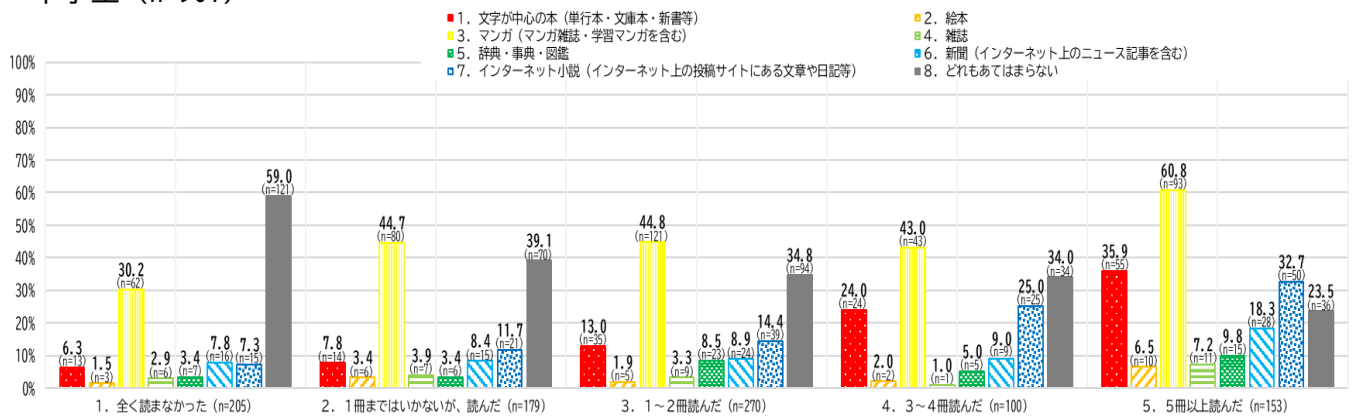


(2) 1 か月の読書冊数と利用した電子の文字・活字媒体（％）【複数回答】

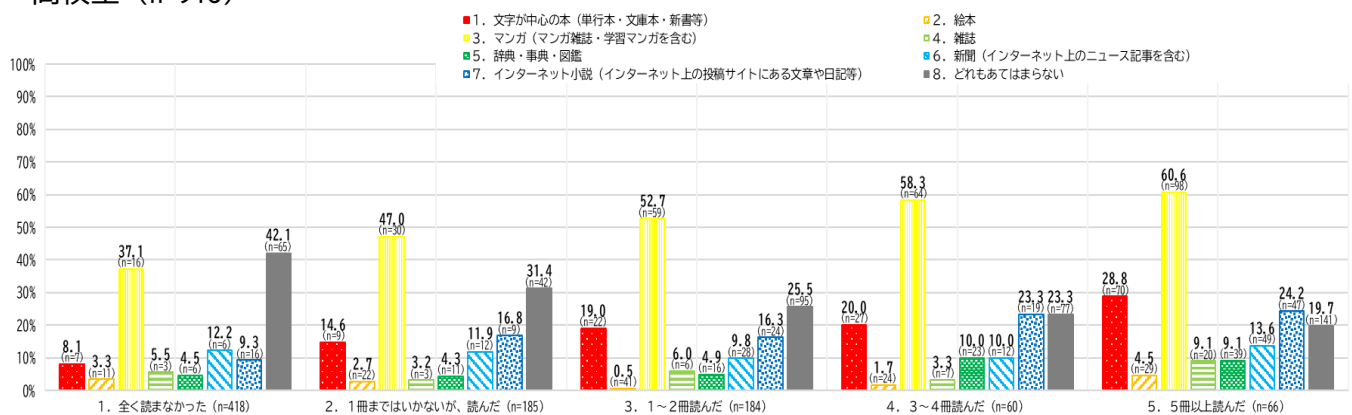
・小学生（n=951）



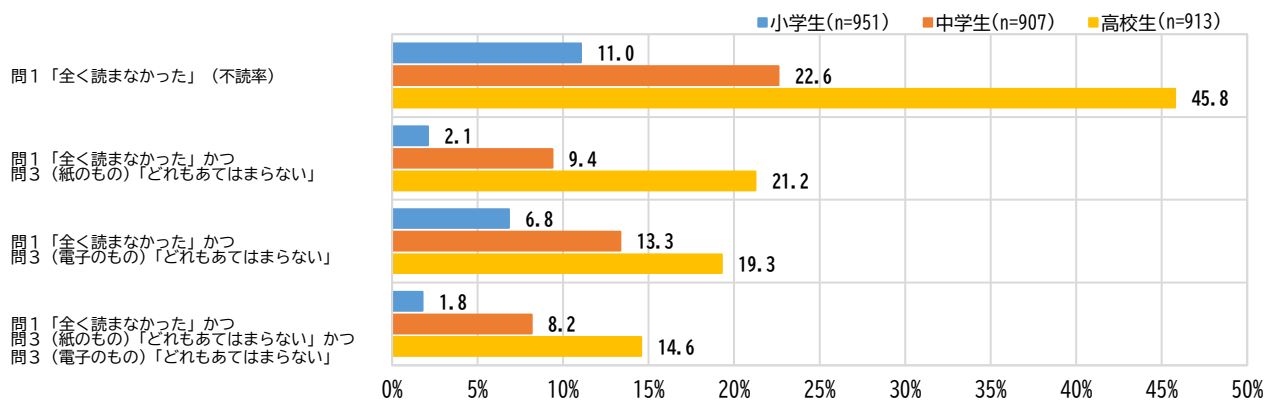
・中学生（n=907）



・高校生（n=913）



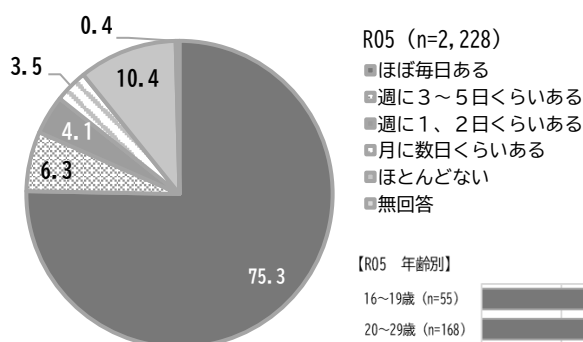
(参考) 不読率と1か月に利用した文字・活字媒体の比較（％）



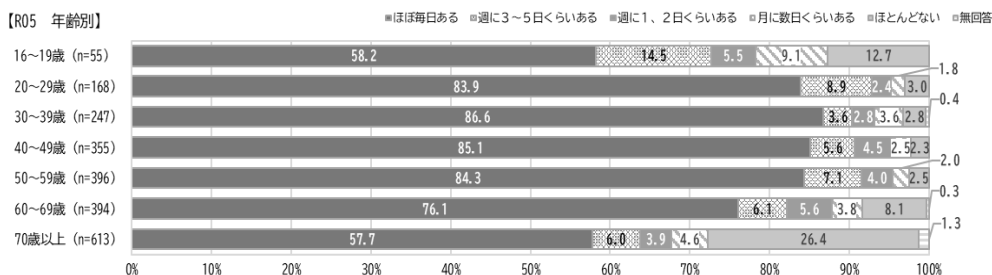
(参考) 全国16歳以上の本以外の文字・活字による情報を読む機会(%)

(文化庁国語課『令和5年度「国語に関する世論調査」』より)

※ 「あなたは現在、1か月に大体何冊くらい本を読んでいますか。電子書籍を含みますが、雑誌や漫画は除きます。」という質問に対し、「読まない」と回答した人が対象。【単一回答】

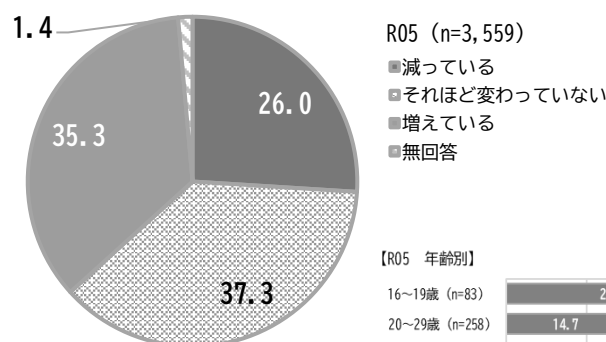


【R05 年齢別】

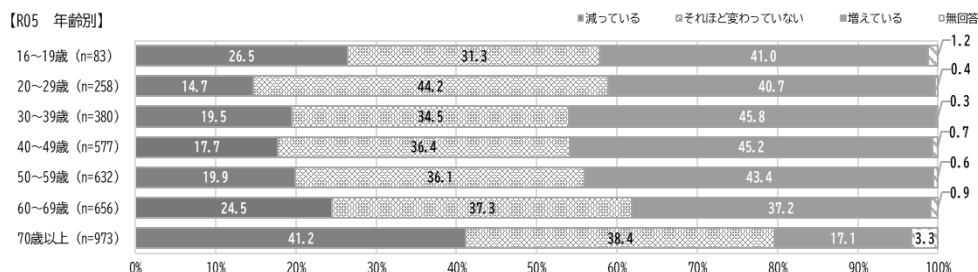


(参考) 全国16歳以上の文字・活字による情報に触れる時間の変化(%)【単一回答】

(文化庁国語課『令和5年度「国語に関する世論調査」』より)



【R05 年齢別】



9月1か月間に【本】を全く読まなかった児童生徒が利用した文字・活字媒体をみると、小学生については、紙媒体では「マンガ」(54.3%)、「絵本」(31.4%)、電子媒体では「どれもあてはまらない」(61.9%)、「マンガ」(15.2%)の順に回答割合が高かった。中学生・高校生については、紙媒体では「どれもあてはまらない」(中41.5%、高46.4%)、「マンガ」(中37.6%、高32.8%)、電子媒体でも「どれもあてはまらない」(中59.0%、高42.1%)、「マンガ」(中30.2%、高37.1%)の順に回答割合が高かった。校種が上がるにつれて、紙媒体の「どれもあてはまらない」の回答割合は増加傾向にある一方、電子媒体の「どれもあてはまらない」の回答割合は減少傾向にあり、媒体特性をふまえた読書環境の整備が求められている。また、校種を問わず、紙媒体・電子媒体ともに「マンガ」が主要な文字・活字媒体となっていることがうかがえる。

不読率と1か月に利用した文字・活字媒体の比較をみると、9月1か月間に【本】を全く読んでおらず、紙・電子いずれの文字・活字媒体も利用しなかった児童生徒の割合は、小学生1.8%、中学生8.2%、高校生14.6%にとどまり、不読率に比べて大幅に低くなった。不読率に定義されている【本】は読んでいなくても、多くの児童生徒が何らかの形で文字・活字情報に接していると考えられる。

全国16歳以上の本以外の文字・活字による情報を読む機会をみると、「ほぼ毎日ある」(75.3%)の回答割合が最も高く、「ほとんどない」(10.4%)の回答割合は2番目に高かった。また、文字・活字による情報に触れる時間をみると、「減っている」(26.0%)の回答割合は1/4程度にとどまっており、文字・活字への接触が完全に途切れている層は限定的であると考えられる。

3. 学校図書館の利用

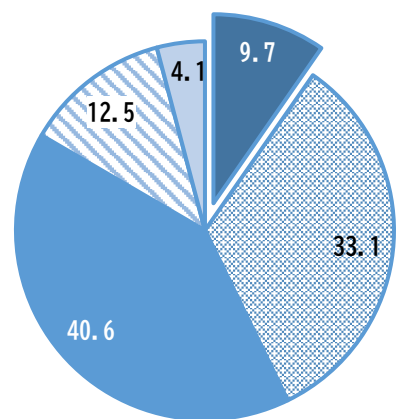
①学校図書館の利用頻度

本調査の対象者全員に対して、普段、学校図書館をどのくらい利用しているかを質問した。

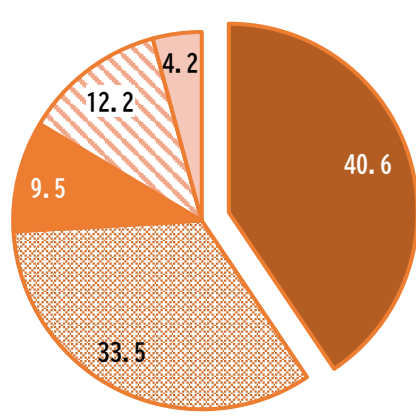
※ 朝読書や授業の時間の利用を含む。

(1)学校図書館の利用頻度（％）【単一回答】

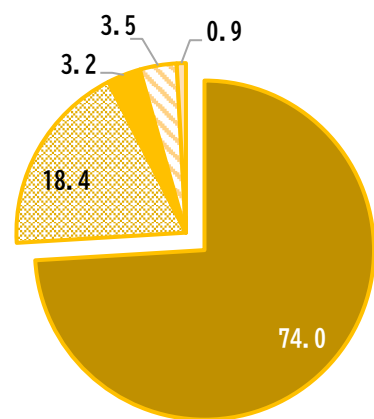
・小学生（n=951）



・中学生（n=907）



・高校生（n=913）



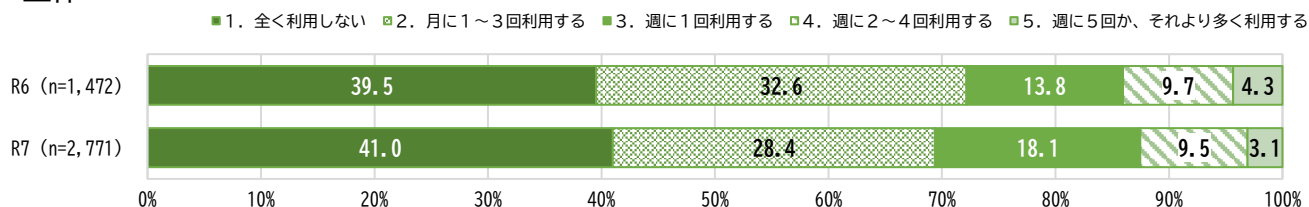
- 1. 全く利用しない (n=92)
- 2. 月に1～3回利用する (n=315)
- 3. 週に1回利用する (n=386)
- 4. 週に2～4回利用する (n=119)
- 5. 週に5回か、それより多く利用する (n=39)

- 1. 全く利用しない (n=368)
- 2. 月に1～3回利用する (n=304)
- 3. 週に1回利用する (n=86)
- 4. 週に2～4回利用する (n=111)
- 5. 週に5回か、それより多く利用する (n=38)

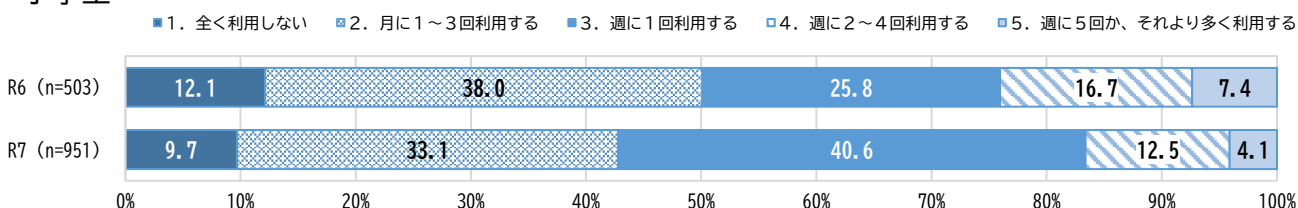
- 1. 全く利用しない (n=676)
- 2. 月に1～3回利用する (n=168)
- 3. 週に1回利用する (n=29)
- 4. 週に2～4回利用する (n=32)
- 5. 週に5回か、それより多く利用する (n=8)

(2)「学校図書館の利用頻度」の推移（校種別・％）【単一回答】

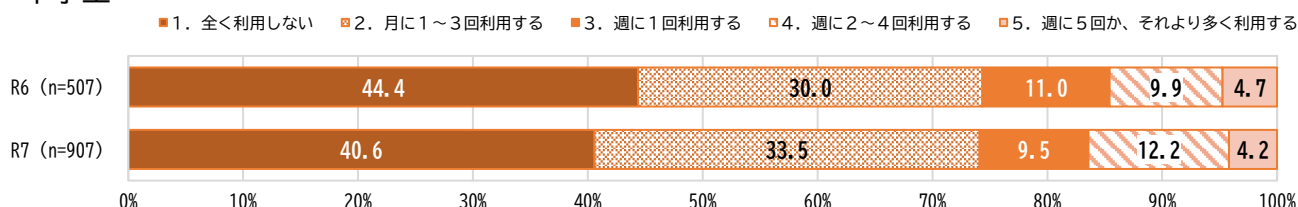
・全体



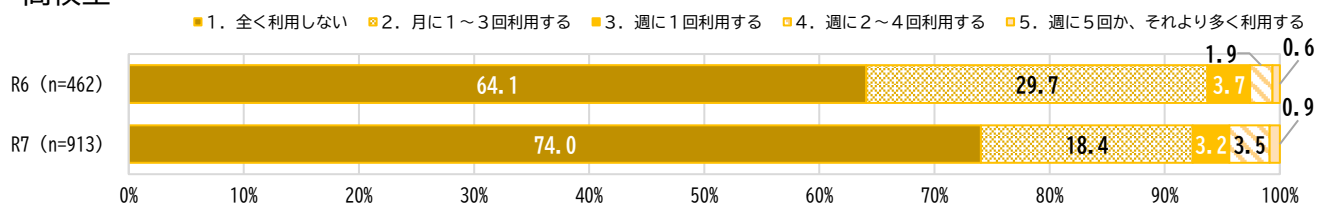
・小学生



・中学生



・高校生

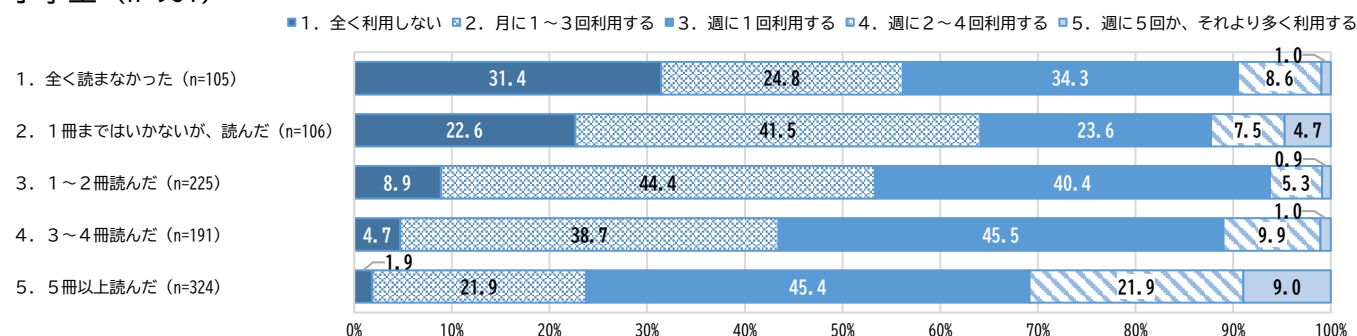


② 1 か月の読書冊数と学校図書館の利用頻度の関係

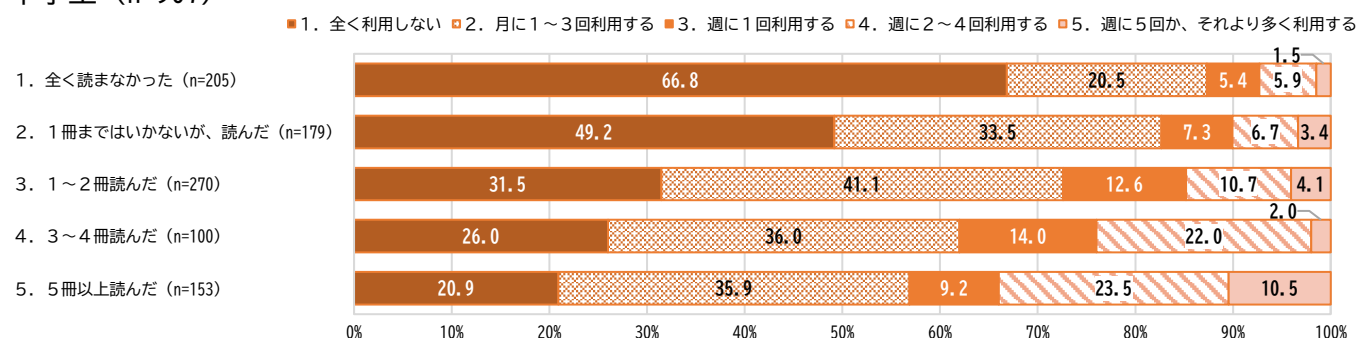
問1（1か月の読書冊数）と、問4（学校図書館の利用頻度）の回答結果について、相関を分析するため、クロス集計を行った。

(1) 1 か月の読書冊数と学校図書館の利用頻度（％）

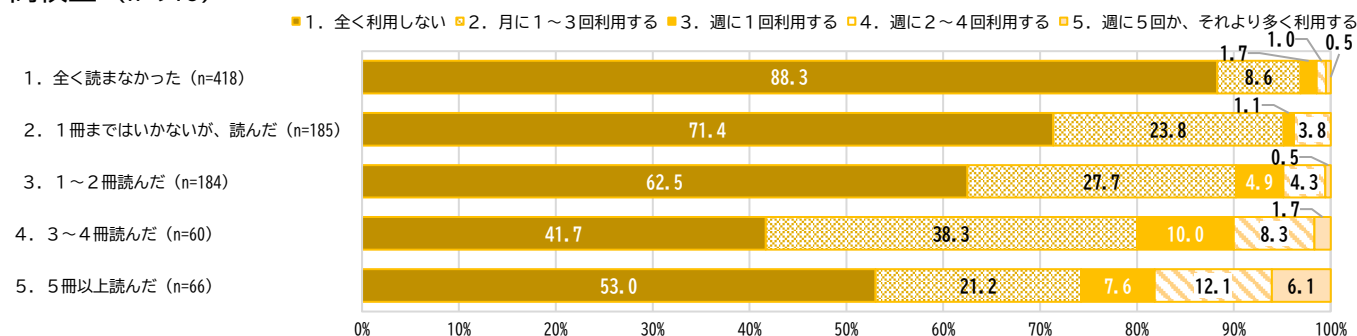
小学生（n=951）



中学生（n=907）



高校生（n=913）



令和7年度調査では、全体的に「全く利用しない」（41.0％）の回答割合が最も高く、令和6年度調査と同様の傾向がみられた。

小学生については、「週に1回利用する」（40.6％）の回答割合が最も高く、「月に1～3回利用する」（33.1％）の回答割合が2番目に高かった。中学生・高校生については、「全く利用しない」（中40.6％、高74.0％）の回答割合が最も高く、「月に1～3回利用する」（中33.5％、高18.4％）の回答割合が2番目に高かった。問2（本の入手方法）における結果と同様に、校種が上がるにつれて、学校図書館を利用しない割合は、小学生9.7％＜中学生40.6％＜高校生74.0％と増加傾向にある。

9月1か月間に【本】を全く読まなかった児童生徒の学校図書館の利用頻度をみると、小学生については、「週に1回利用する」（34.3％）の回答割合が最も高く、「全く利用しない」（31.4％）の回答割合が2番目に高かった。中学生・高校生については、「全く利用しない」（中66.8％、高88.3％）の回答割合が最も高く、「月に1～3回利用する」（中20.5％、高8.6％）の回答割合が2番目に高かった。9月1か月間に【本】は読んでいなくても、月1回以上学校図書館を利用している児童生徒は、小学生68.6％、中学生33.2％、高校生11.7％となり、特に本の入手方法で「学校の図書館で借りた」の回答割合が高かった小学生・中学生にとっては、学校図書館が児童と読書をつなぐ場となる可能性があることがうかがえる。

4. 総括

不読率については、全校種で前年度より上昇し、校種別にみると、小学生は上昇傾向にあり、中学生は本年度上昇幅が大きく、高校生は高止まりが続いている。不読の理由については、「読みたい【本】がなかったから」「他にしたいことがあったから」「【本】を読む時間がなかったから」の回答割合が高く、児童生徒が多様な本と出会い、読書の楽しさや価値を実感し、主体的に本を「読みたい」と感じられる環境整備や読書支援が求められる。

本の入手方法については、「学校の図書館で借りた」「保護者や親戚に買ってもらった、または家にあった」の回答割合が高く、学校や地域の図書館で本を借りる割合は、校種が上がるにつれて減少傾向にあるが、保護者等による購入本や家庭の蔵書を利用する割合は、全校種で高い傾向にあり、家庭が読書の重要な基盤であることが再確認された。

紙媒体及び電子媒体の文字・活字媒体の利用については、1か月間に【本】を全く読まなかった児童生徒の多くが、何らかの形で文字・活字情報に接しており、特に「マンガ」は、校種を問わず、紙媒体・電子媒体ともに主要な文字・活字媒体となっていることがうかがえた。

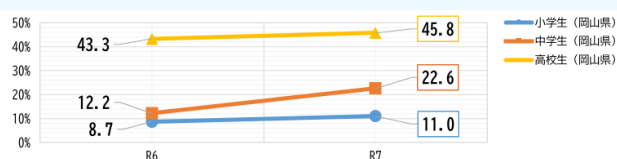
学校図書館の利用については、1か月間に【本】全く読まなかった児童生徒の中にも、月1回以上学校図書館を利用している層があり、特に小学生・中学生においては、学校図書館が児童生徒と読書をつなぐ場となる可能性が示唆された。

以上をふまえ、不読率の改善にむけて、児童生徒が日常的に接している文字・活字媒体や、興味・関心のある事柄を起点に、段階的に読書へとつながるよう、読書を「紙の本」に限定せず、発達段階や関心に応じた多様な読書への入口を用意することが重要と考えられる。国の『第五次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」』が指摘する「不読率の低減」、「多様な子どもたちの読書機会の確保」、「デジタル社会に対応した読書環境の整備」、「子どもの視点に立った読書活動の推進」の重要性もふまえ、発達段階に応じた学校図書館の活用促進、紙媒体と電子媒体を組み合わせた読書環境の整備、家庭・地域と連携した読書機会の創出等、家庭・学校・地域が連携して子どもの発達段階や生活実態に応じた多様な読書環境を整備していくことが求められている。

なお、不読の理由として「文字や文章を読むことが苦手だから」と回答した児童生徒が、全校種で一定割合存在していた。視覚障害等に限らず、読むことに困難さを感じている児童生徒一人ひとりの状況に応じた支援の充実も引き続き課題である。音声資料や電子書籍の活用、読みやすさに配慮した資料提供等を含め、多様な読書形態を保障する取組を、学校図書館をはじめとする関係機関と連携しながら推進していくことが求められている。

現状

●不読率 全校種で上昇



- 不読の理由で多かったのは
「読みたい本がなかったから」
「他にしたいことがあったから」
「本を読む時間がなかったから」

←「文章や文字を読むことが苦手だから」
(小13.3%、中17.1%、高15.1%)
→「読むことが苦手」と感じる層が一定割合存在

- 本の入手方法で多かったのは
「学校の図書館で借りた」
「保護者や親戚に買ってもらった、または家にあった」

- 不読者でも 多くが 何らかの形で紙や電子の文字・活字媒体を利用
→「マンガ」が全校種で人気

←「不読＝文字・活字情報からの断絶」ではない
→関心や利用する媒体は多様化

- 不読者でも 一定数が月1回以上学校図書館を利用
(小68.6%、中33.2%、高11.7%)

←特に小学生・中学生にとって
学校図書館は 読書の入口になり得る

今後にむけて

- 日常的な文字・活字媒体や興味・関心のある事柄から読書へ



- ・発達段階に応じた学校図書館の活用促進



- ・紙媒体と電子媒体を組み合わせた読書環境の整備



- ・家庭・地域と連携した読書機会の創出



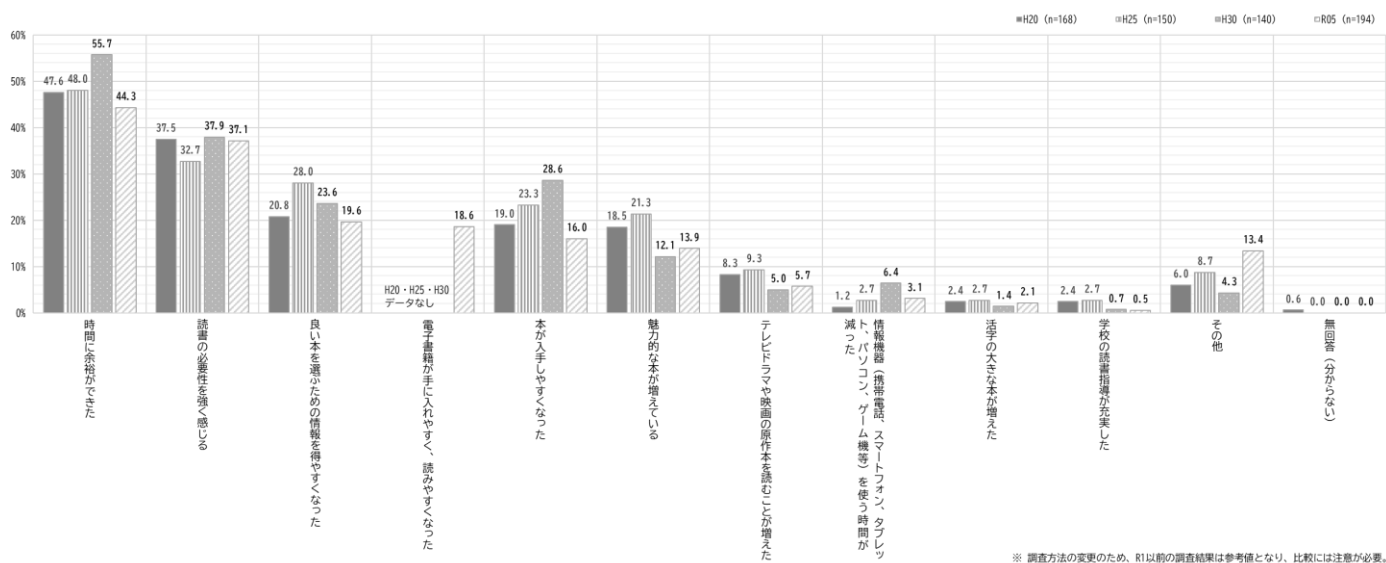
- 読書バリアフリーの推進

5. 参考

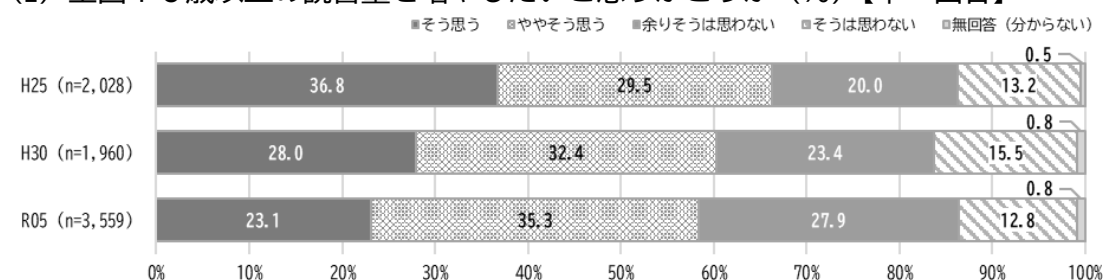
①文化庁国語課『令和5年度「国語に関する世論調査」』より

(1)全国16歳以上の読書量が増えている理由【複数回答・2つまで】

※「あなたの読書量は、以前に比べて減っていますか。それとも増えていますか。」という質問【単一回答】に対し、「読書量は増えている」と回答した人が対象。



(2) 全国16歳以上の読書量を増やしたいと思うかどうか（％）【単一回答】

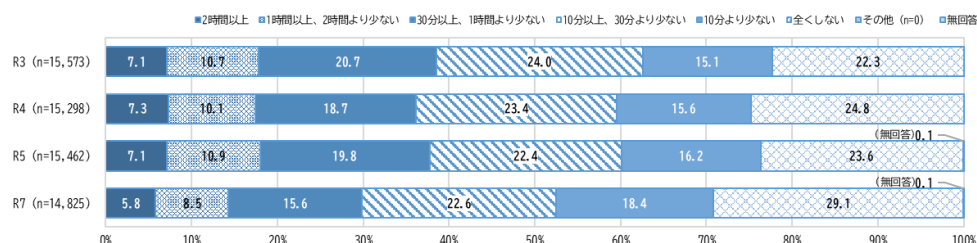


②文部科学省『全国学力・学習状況調査』（令和3年度～令和7年度）より

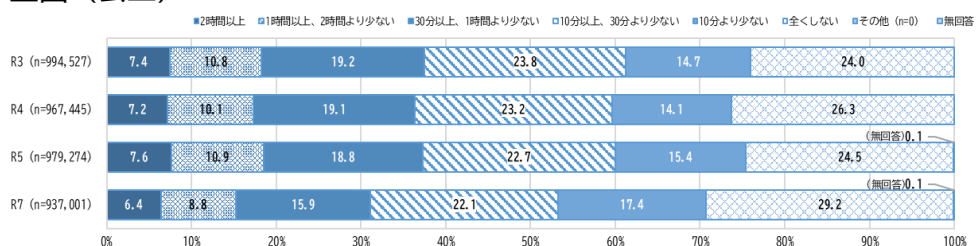
(1) 学校の授業時間以外の、普段（月～金曜日）1日あたりの読書時間（％）【単一回答】

※ 電子書籍の読書は含むが、教科書や参考書、漫画や雑誌の読書は除く。

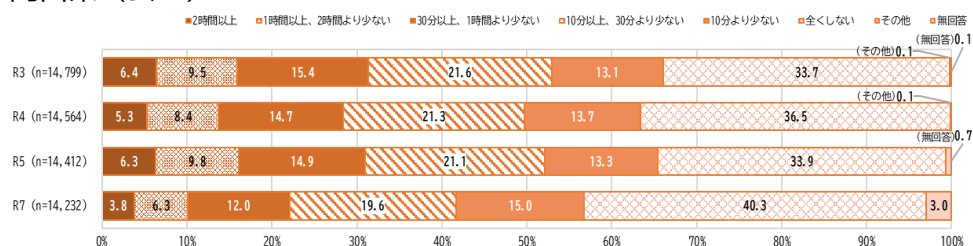
・小学6年生
岡山県（公立）



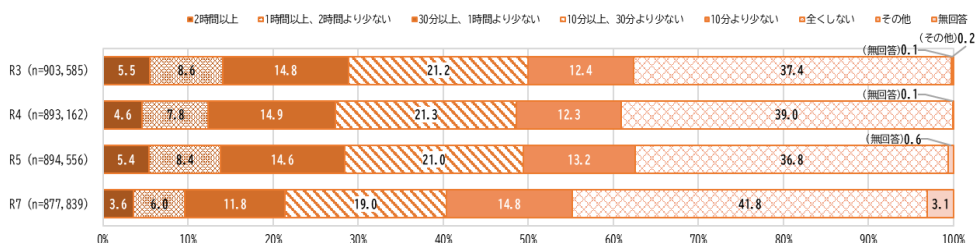
全国（公立）



・中学3年生
岡山県（公立）

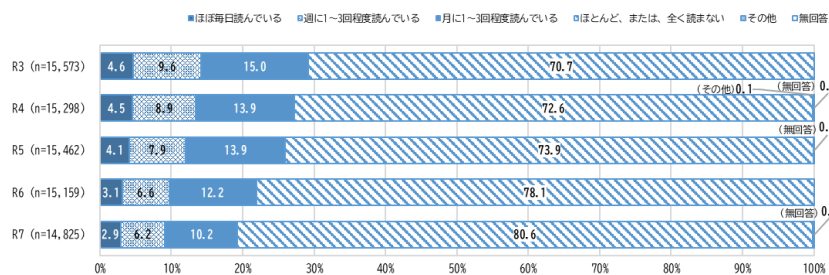


全国（公立）

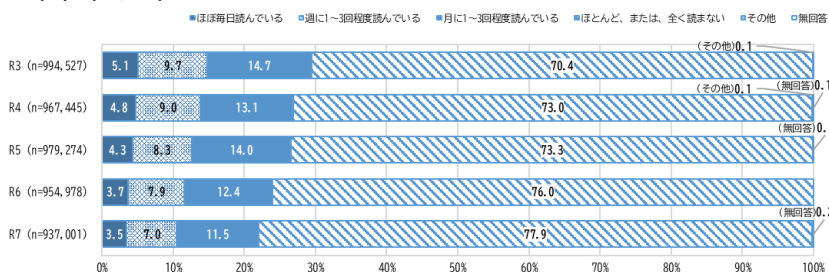


(2)新聞を読んでいるかどうか（％）【単一回答】

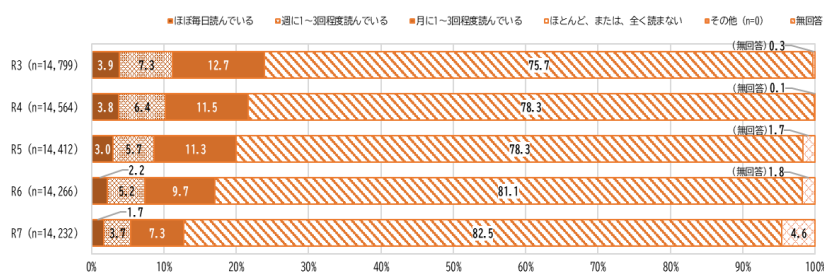
・小学6年生
岡山県（公立）



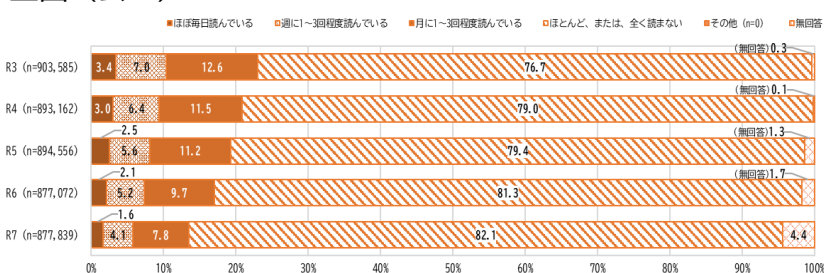
全国（公立）



・中学3年生
岡山県（公立）

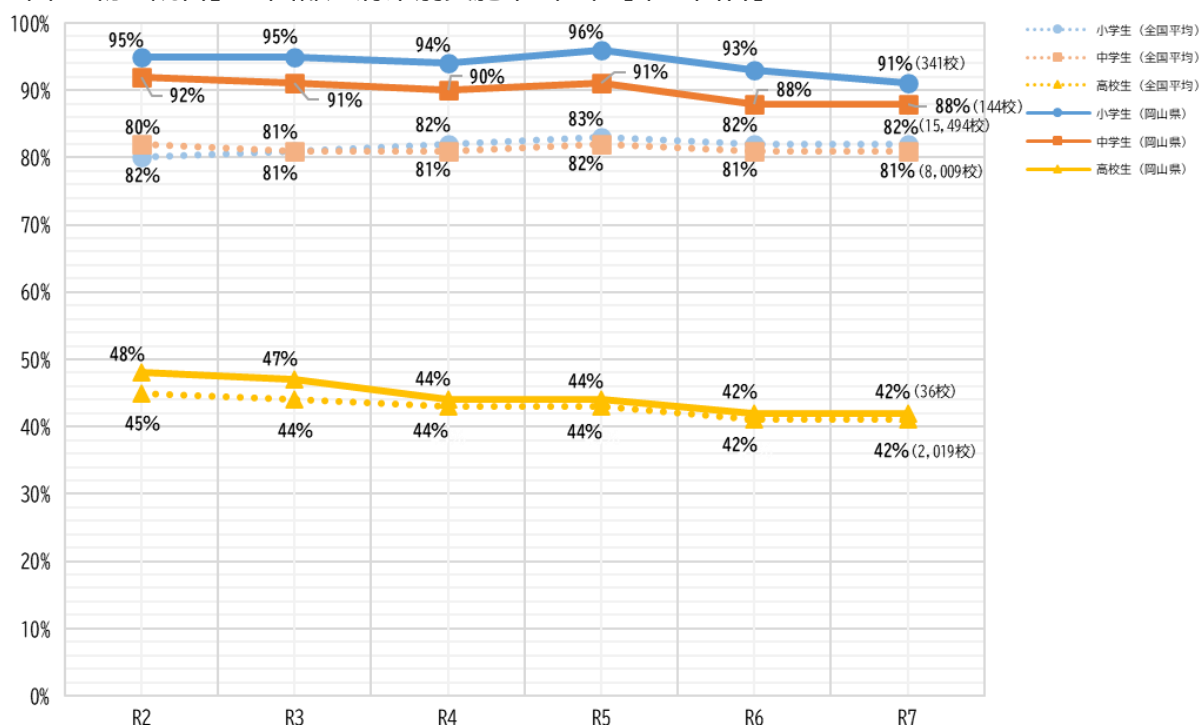


全国（公立）

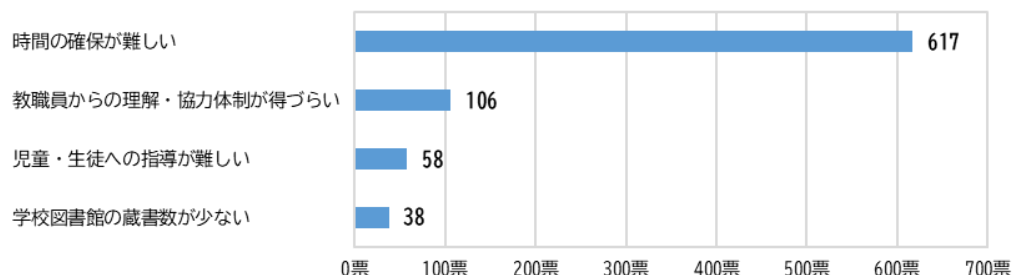


③朝の読書推進協議会『「朝の読書」全国都道府県別実施校数一覧』（2021年3月現在～2025年5月現在）
朝の読書推進協議会『2025年度「朝の読書」アンケート』より

(1)「朝の読書」全国都道府県別実施率(%)【単一回答】



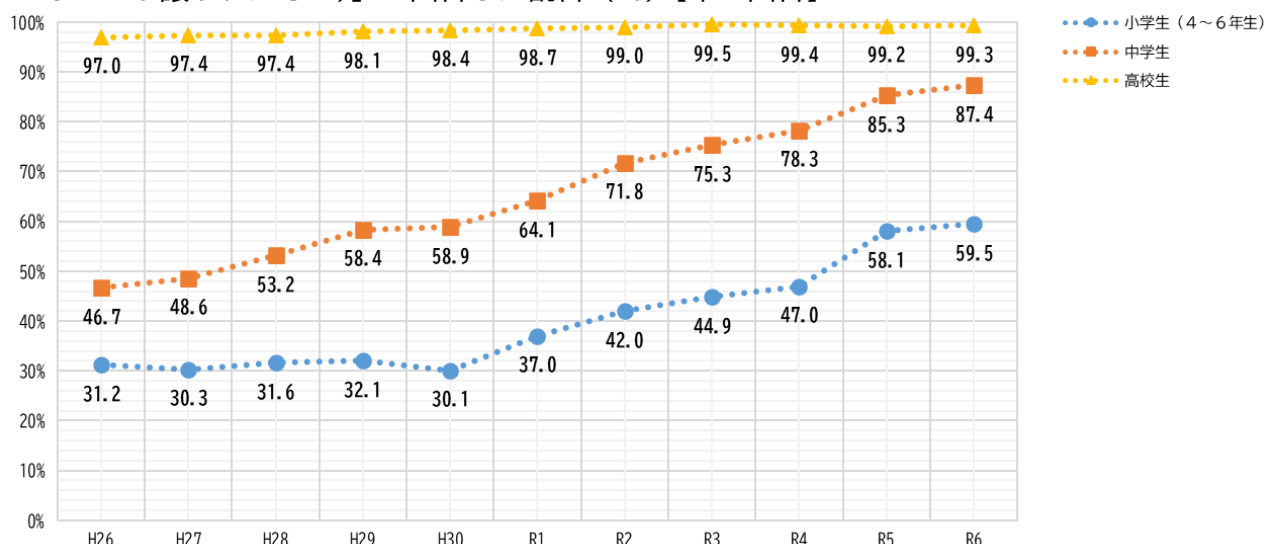
(2)「朝の読書」実施の障害になる事柄(票)【複数回答】



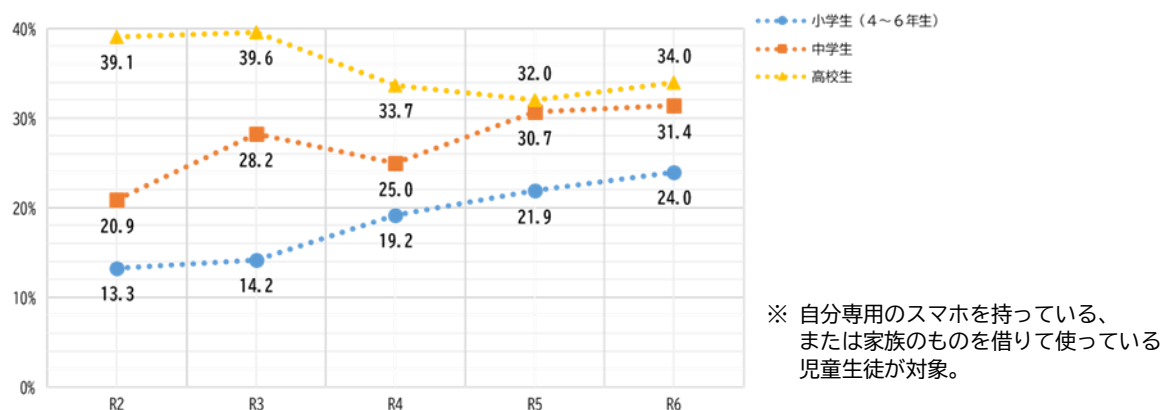
※ 非実施校のみ対象。

④岡山県教育庁人権教育・生徒指導課『スマートフォン等の利用に関する実態調査の結果について』（令和元年度～令和6年度）より

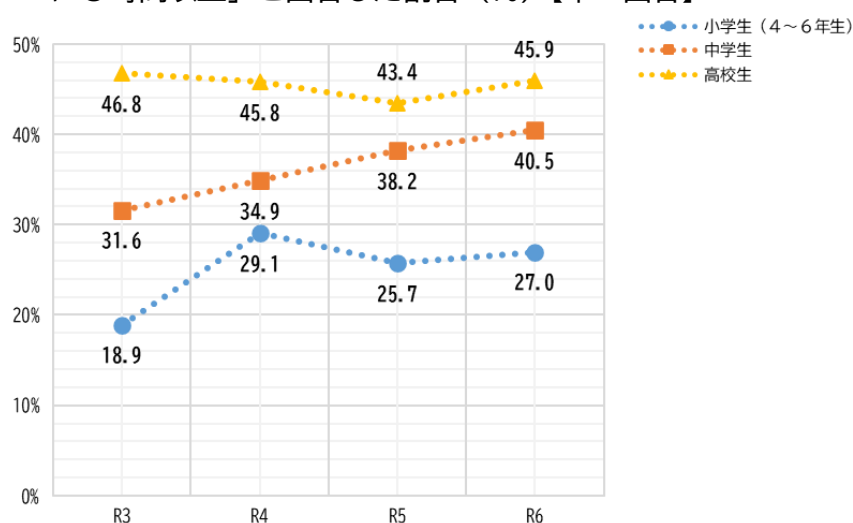
(1)「自分専用のスマホ・携帯を持っている」「契約していない自分専用スマホを持っている(家族などから譲られたもの)」と回答した割合(%)【単一回答】



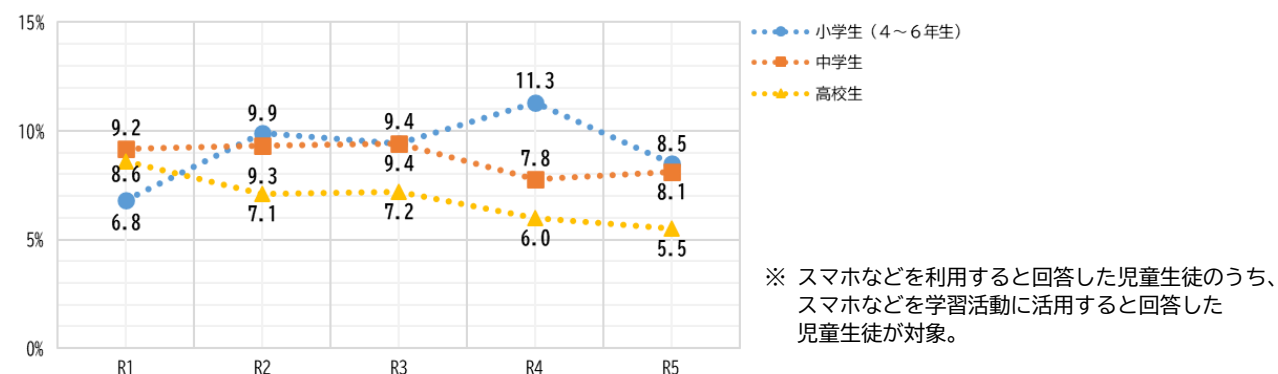
(2) スマホの利用時間（学習の目的で利用している時間を除く）の合計が「平日1日に3時間以上」と回答した割合（％）【単一回答】



(3) 情報端末（スマホ、パソコン、タブレット）の利用時間（学習時間を含む）の合計が「平日1日に3時間以上」と回答した割合（％）【単一回答】



(4) どのようにスマホやパソコン、タブレットを学習に利用しているかの割合のうち、「読書（マンガをのぞく）」と回答した割合（％）【複数回答】



6. 参考文献

- 公益社団法人全国学校図書館協議会 調査研究部 (2025)「特集 子どもの読書の現状 (第 70 回学校読書調査報告)」『学校図書館』901. pp.13-37. 公益社団法人全国学校図書館協議会
- 公益社団法人全国学校図書館協議会 調査研究部 (2024)「特集 子どもの読書の現状 (第 69 回学校読書調査報告)」『学校図書館』889. pp.13-41. 公益社団法人全国学校図書館協議会
- 文化庁国語課 (2024)「世論調査報告書 令和 5 年度「国語に関する世論調査」」. https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/kokugo_yoronchosa/pdf/94111701_03.pdf
- 文部科学省・国立教育政策研究所 (2025)「令和 7 年度全国学力学習状況調査 回答結果集計 [児童質問調査] 岡山県一児童 (公立)」. https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/factsheet/33_okayama/33p_25ag.pdf
- 文部科学省・国立教育政策研究所 (2025)「令和 7 年度全国学力学習状況調査 回答結果集計 [生徒質問調査] 岡山県一生徒 (公立)」. https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/factsheet/33_okayama/33m_25ag.pdf
- 文部科学省・国立教育政策研究所 (2024)「令和 6 年度全国学力学習状況調査 回答結果集計 [児童質問調査] 岡山県一児童 (公立)」. https://warp.ndl.go.jp/20250911/20250901130518/https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/factsheet/33_okayama/33p_24ag.pdf
- 文部科学省・国立教育政策研究所 (2024)「令和 6 年度全国学力学習状況調査 回答結果集計 [生徒質問調査] 岡山県一生徒 (公立)」. https://warp.ndl.go.jp/20250911/20250901130518/https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/factsheet/33_okayama/33m_24ag.pdf
- 文部科学省・国立教育政策研究所 (2023)「令和 5 年度全国学力学習状況調査 回答結果集計 [児童質問調査] 岡山県一児童 (公立)」. https://warp.ndl.go.jp/20250911/20250901140915/https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukoku/factsheet/33_okayama/33p_23ag.pdf
- 文部科学省・国立教育政策研究所 (2023)「令和 5 年度全国学力学習状況調査 回答結果集計 [生徒質問調査] 岡山県一生徒 (公立)」. https://warp.ndl.go.jp/20250911/20250901140915/https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukoku/factsheet/33_okayama/33m_23ag.pdf
- 文部科学省・国立教育政策研究所 (2022)「令和 4 年度全国学力学習状況調査 回答結果集計 [児童質問調査] 岡山県一児童 (公立)」. https://warp.ndl.go.jp/20250911/20250901141629/https://www.nier.go.jp/22chousakekkahoukoku/factsheet/33_okayama/33p_22ag.pdf
- 文部科学省・国立教育政策研究所 (2022)「令和 4 年度全国学力学習状況調査 回答結果集計 [生徒質問調査] 岡山県一生徒 (公立)」. https://warp.ndl.go.jp/20250911/20250901141629/https://www.nier.go.jp/22chousakekkahoukoku/factsheet/33_okayama/33m_22ag.pdf
- 文部科学省・国立教育政策研究所 (2021)「令和 3 年度全国学力学習状況調査 回答結果集計 [児童質問調査] 岡山県一児童 (公立)」. https://warp.ndl.go.jp/20250911/20250901062828/https://www.nier.go.jp/21chousakekkahoukoku/factsheet/33_okayama/33p_21ag.pdf
- 文部科学省・国立教育政策研究所 (2021)「令和 3 年度全国学力学習状況調査 回答結果集計 [生徒質問調査] 岡山県一生徒 (公立)」. https://warp.ndl.go.jp/20250911/20250901062828/https://www.nier.go.jp/21chousakekkahoukoku/factsheet/33_okayama/33m_21ag.pdf
- 岡山県立図書館 (2025)「岡山県内公共図書館調査」岡山県立図書館. <https://www.libnet.pref.okayama.jp/libnet/koukyou/index.htm>
 - 令和 7 年度 (令和 6 年度分)、令和 6 年度 (令和 5 年度分)、令和 5 年度 (令和 4 年度分) 令和 4 年度 (令和 3 年度分)、令和 3 年度 (令和 2 年度分)、令和 2 年度 (令和元年度分)
- 朝の読書推進協議会 (2025)「朝の読書」全国都道府県別実施校数一覧 (2025 年 5 月現在)」株式会社 トーハン. https://www.tohan.jp/wp/wp-content/themes/tohan/pdf/asadoku_school.pdf
 - 2024 年 6 月 28 日現在、2023 年 5 月 31 日現在、2022 年 5 月 20 日現在、2021 年 3 月 31 日現在のデータについては、過去掲載資料より引用。
- 朝の読書推進協議会 (2025)「2025 年度「朝の読書」アンケート」株式会社 トーハン. https://www.tohan.jp/wp/wp-content/themes/tohan/pdf/asadoku_chousa2025.pdf
- 岡山県教育庁人権教育・生徒指導課 (2025)「スマートフォン等の利用に関する実態調査の結果について」岡山県庁. <https://www.pref.okayama.jp/site/16/611524.html>
 - 令和 6 年度調査結果、令和 5 年度調査結果、令和 4 年度調査結果、令和 3 年度調査結果、令和 2 年度調査結果、令和元年度調査結果
- 文部科学省総合教育政策局 地域学習推進課図書館・学校図書館振興室 (2023)「第五次『子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画』について」文部科学省. https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/mext_00072.html